



取扱説明書

⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

TT-R125

モーターサイクル

TT-R125LWE

重要項目ラベルの貼り付け位置

安全運転のために

各部の名称

各部の取り扱いと操作

日常点検

運転操作

点検整備

お車の手入れ

製品仕様

ユーザー情報

索引

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

ヤマハ TT-R125LWE をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書はお客様に車の操作、点検、整備をご理解いただけるよう作成されたものです。車の操作やメンテナンスなどに関するご質問は、ヤマハ販売店にお問い合わせください。

この車は一般市販車と異なり、クレーム保証の対象にはなりませんので、あらかじめご了承ください。また、定期点検制度、アフターサービスの対象外となりますので、各自が日頃の点検整備を行って常に最良の調子を保つように心掛けてください。

重要な事項：

- 車に乗る前に、この取扱説明書をよく読んで、説明を理解してください。
- 車に貼られている警告ラベル、注意ラベルをよくお読みください。
- 適切なトレーニングまたは教育を受けないで、車を操作しないでください。

保護者の方へ重要なお知らせ：

この車は玩具ではありません。お子さんを車に乗らせる前に、保護者の方が取扱説明書の説明や警告を理解してください。その上でお子さんによく理解させ、またお子さんを補佐してください。子供たちは、能力、体力、判断力が1人1人異なります。車を安全に操作することができない子もいます。保護者の方は、いつもお子さんの車の使いかたを監督してください。お子さんが安全に車を操作できると判断したとしても、できる限り目を配ってください。

モーターサイクルは2輪の乗り物です。安全に使用、操作できるかどうかは、操作する人のライディングテクニックと経験にかかっています。全ての使用者は、この車に乗る前に以下の必要条件を知っておいてください。

守ってください：

- 車の操作のあらゆる局面について、あらゆる情報から学ぶこと。
- この取扱説明書の警告や点検整備の要件を遵守すること。
- 安全で正しいライディングテクニックのトレーニングを受けること。
- 取扱説明書に示される時期、あるいは車の状態に応じて必要なときに、プロの整備を受けること。

重要な情報

JAU45991

本書では、重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています：

	安全にかかわる注意情報を示してあります。
 警告	取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。
注意	取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

要 点

- 本書は車両の一部として常に車両とともに保管しておき、人に車両を譲るときは、必ず本書も渡してください。
- ヤマハでは、常に製品の設計および品質の改善をめざしております。したがって、本書に記載されている情報は、本書を印刷した時点で最新のものであり、実際の車両と本書の情報に多少の違いが生じている可能性があります。本書に関する疑問点については、ヤマハ販売店にお問い合わせください。

JWA10032



車を使用する前に、この取扱説明書をよくお読みください。

JWA14352



この車両はオフロード専用です。国土交通省の認定は受けておりませんので、一般の道路、高速道路を走行すると道路交通法および道路運送車両法の違反となります。私道、神社の境内、公園、農道、堤防上など、いわゆる道路としての形態を整えていないところでも人や車が自由に出入りできる場所は、一般の道路とみなされます。また、この車は騒音規制に適合しておりません。車を使用する前に、地方条例等を確認してください。

* 製品の仕様は、予告なしに変更されることがあります。

重要項目ラベルの貼り付け位置	1-1
----------------	-----

安全運転のために	2-1
----------	-----

各部の名称	3-1
左側面	3-1
右側面	3-2
運転装置と計器類	3-3

各部の取り扱いと操作	4-1
メインスイッチ	4-1
ハンドルスイッチ	4-1
クラッチレバー	4-2
シフトペダル	4-2
ブレーキレバー	4-2
ブレーキペダル	4-3
フューエルタンクキャップ	4-3
燃料	4-4
フューエルタンク	
ブリーザーホース	4-4
フューエルコック	4-5
チョークノブ	4-5
キックスターター	4-6
シート	4-6
フロントフォークの調整	4-7
リヤクッションの調整	4-7
サイドスタンド	4-9
スターティングサーキット	
カットオフシステム	4-9

日常点検	5-1
日常点検の実施	5-1

運転操作	6-1
ならし運転	6-1
エンジン始動	
(エンジンが冷えているとき)	6-2
エンジン始動	
(エンジンが暖まっているとき)	6-2
ギヤチェンジのしかた	6-3
ブレーキ	6-3
駐車	6-4

点検整備	7-1
定期点検整備	7-1
定期点検項目 (排ガス関連)	7-2
定期点検整備項目 (一般) と給油	7-3
カバーの取り外し、取り付け	7-6
スパークプラグの点検	7-7
エンジンオイル	7-8
エアクリーナーエレメントの清掃	7-10
スパークアレスターの清掃	7-11
キャブレターの調整	7-12
エンジンアイドリング回転数の調整	7-12
スロットルグリップの遊びの調整	7-13
バルブクリアランス	7-14
タイヤ	7-14
スポークホイール	7-15
アクセサリと交換部品	7-15
クラッチレバーの遊びの調整	7-16
ブレーキレバーの遊びの調整	7-17
ブレーキペダル取り付け高さとの遊びの調整	7-17
シフトペダルの点検	7-18

フロントブレーキパッドおよび リヤブレーキシューの点検	7-19
ブレーキ液量の点検	7-19
ブレーキ液の交換	7-20
ドライブチェーン	7-20
ドライブチェーンの給油	7-21
ケーブルの点検と注油	7-22
スロットルグリップおよび ケーブルの点検と注油	7-22
ブレーキペダルおよび シフトペダルの点検と注油	7-22
ブレーキおよびクラッチレバーの 点検と注油	7-23
サイドスタンドの点検と注油	7-23
リヤサスペンションの注油	7-24
スイングアームピボットの注油	7-24
フロントフォークの点検	7-24
ステアリングの点検	7-25
ホイールベアリングの点検	7-25
バッテリー	7-26
ヒューズの交換	7-27
車体の支持	7-27
フロントホイール	7-28
リヤホイール	7-28
こんなときは	7-30
トラブルシューティングチャート	7-31

お車の手入れ	8-1
お車の手入れ	8-1
保管のしかた	8-2
アフターケア用品について	8-3

もくじ

製品仕様	9-1
------------	-----

ユーザー情報	10-1
--------------	------

ID 番号	10-1
-------------	------

二輪車を廃棄する場合は？	10-2
--------------------	------

サービスマニュアル（別売）の 紹介	10-3
----------------------------	------

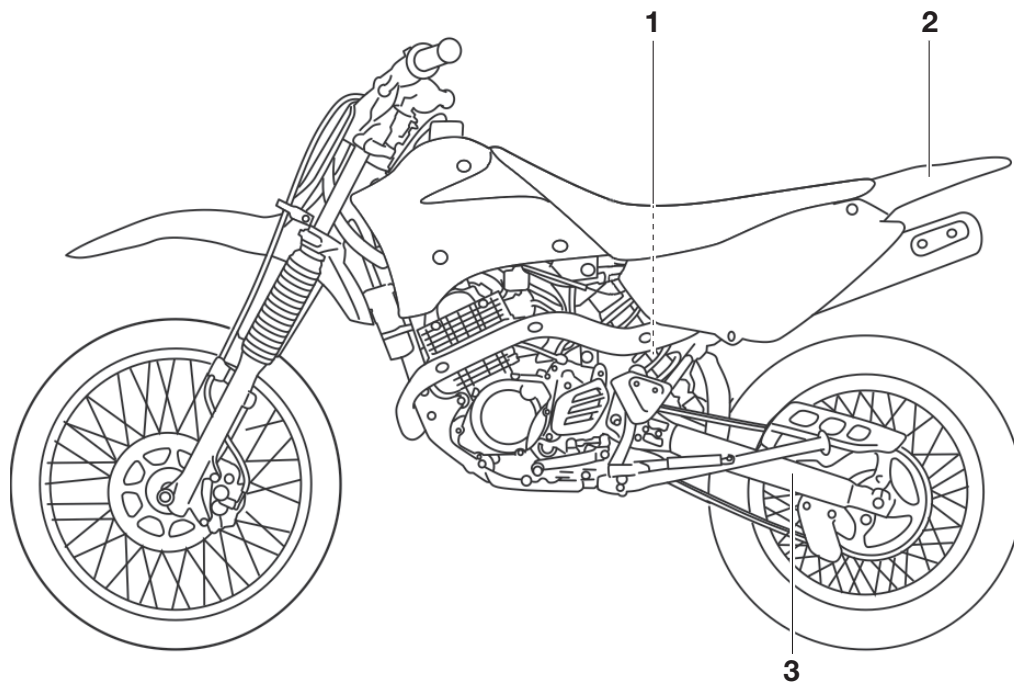
索引	11-1
----------	------

重要項目ラベルの貼り付け位置

JAU10386

1

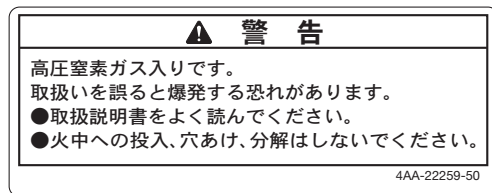
車両を運転する前に以下に示す重要ラベルをお読みください。



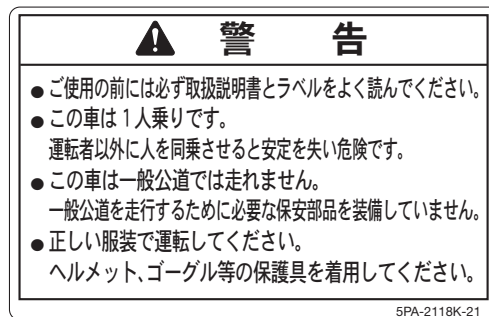
重要項目ラベルの貼り付け位置

1

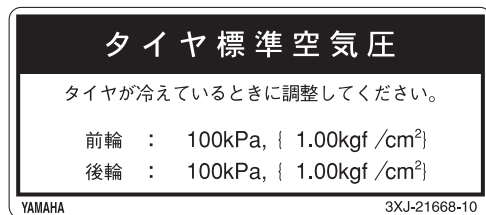
1



2



3



JAU41469

使用者の責任

車両の使用者として、安全で適切な操作を行う責任があります。

バイクは二輪の乗り物です。安全に利用、運転するためには、適切な運転技術と運転知識を備えている必要があります。この車を運転するには、次の条件を満たしていなければなりません。

運転者は：

- 車の操作に関するあらゆる局面について、あらゆる情報から学ぶこと。
- この取扱説明書の警告や点検整備の要件を遵守すること。
- 安全で正しいライディングテクニックのトレーニングを受けること。
- 取扱説明書に示される時期、あるいは車の状態に応じて必要なときに、十分な整備技術のある整備士の整備を受けること。

安全運転

走行前には必ず点検を行い、車両が安全に運転できる状態にあるかを確認してください。点検整備を怠ると、事故や車両の損傷につながる可能性が高くなります。走行前点検については、5-1 ページを参照してください。

- この車両はオフロード専用です。一般の道路、高速道路を走行すると道路交通法および道路運送車両法の違反となります。また、私道、神社の境内、公園、農道、堤防上など、いわゆる道路としての形態を整え

ていないところでも人や車が自由に出入りできるところは、一般の道路とみなされます。

- この車両は一人乗り専用です。運転者以外の人を乗せることはできません。
- バイク事故の主な原因は、他の車両の運転者が走行中のバイクを見落としたり、発見が遅れることによります。多くの事故が、他の車両の運転者がバイクに気づかなかったことで起きています。こうした見落とし事故を減らすため、周りから認知されやすい目立つ服装を心がけてください。

具体的には：

- 明るい色の服を着用してください。
- 他の運転者から見える位置を走行してください。運転者の死角を走行しないでください。
- 経験不足のライダーが多くの事故に巻き込まれています。
 - ライダーはバイクに乗る技量が充分な人でなければなりません。またバイクに乗る技量が充分な人のみに貸すようにしてください。
 - ご自身の技量と限界を熟知してください。自分の限界を超えないことが事故防止には大切です。
 - バイク自体とすべての運転操作に慣れるまで、運転操作の練習をすることをおすすめします。

- 多くの事故はライダーのミスによって起きます。典型的な例は、スピードの出し過ぎやバンク角不足によってコーナーを曲がりきれなくなることです。速すぎる速度で走行しないでください。
- 慣れない場所では注意して運転してください。隠れた障害物に出くわし、事故につながるおそれがあります。
- ライダーの姿勢は、正しい運転操作の上で重要です。両手でハンドルを握って、両足をフットレストに置き、車両をコントロールしてください。
- 酒気を帯びているとき、また薬を飲んだときは運転しないでください。
- エンジンを始動する前に、必ずギヤをニュートラルにしてください。

身体を保護する服装

バイクの事故による死亡原因のトップは頭部への傷害です。頭部への傷害を防いだり軽減させるために、必ずヘルメットを着用してください。

- ヘルメットはPSCまたはSG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。
- ヘルメットのシールドまたはゴーグルを着用してください。目を保護しないと、風圧の影響で視力が落ち、危険物の発見が遅れるおそれがあります。
- すり傷、切り傷を防ぐため、ジャケット、ブーツ、ズボン、グローブなどを着用してください。

安全運転のために

2

- だぶついた服は着用しないでください。レバー、フットレスト、ホイールなどにかかり、傷害や事故につながるおそれがあります。
- 防護服を必ず着用し、つま先、かかと、脚部を露出させないでください。運転中や運転直後は、エンジンや排気装置が非常に高温になるため、ヤケドするおそれがあります。

一酸化炭素中毒の予防

すべての排気ガスは、有毒な一酸化炭素を含んでいます。一酸化炭素を吸い込むと、頭痛、めまい、眠気、吐き気、意識障害を起こし、最悪の場合、死亡するおそれがあります。一酸化炭素は無味無臭で無色のガスです。このため、排気ガスが見えない状態や臭いがしない状態でも無意識のうちに一酸化炭素を吸ってしまうおそれがあります。一酸化炭素をいったん吸い込むと、すぐに致死量に達して短時間のうちに意識不明となり死亡するおそれがあります。また、密閉された場所や換気が不十分な場所では、数時間や数日にわたって致死量レベルの一酸化炭素が残ってしまうおそれがあります。万一、中毒症状が現れた場合は、すぐに換気のよいところに移動し、医師の手当てを受けてください。

- 屋内でエンジンをかけないでください。換気扇を回したり窓やドアを開けて換気しても、短時間のうちに一酸化炭素が充満するおそれがあり危険です。

- 倉庫や車庫などの、換気が不十分な場所や閉鎖的な場所でエンジンをかけないでください。
- 屋外であっても、排気ガスが窓やドアなどの開口部から建物の中に吸い込まれる可能性がある場所では、エンジンをかけないでください。

ヤマハ純正アクセサリ

アクセサリを装備する場合は、慎重に製品を選んでください。ヤマハ純正アクセサリは、ヤマハによって設計、テスト、および車両への使用が認められたアクセサリです。ヤマハと無関係な多くのメーカーで、ヤマハ車用のパーツやアクセサリが製造されていたり、その他の改造品が提供されています。ヤマハは、アフターマーケットで販売されているこうした製品をテストすることができません。したがって、ヤマハ製以外のアクセサリの使用やヤマハで特に推奨していない改造については、ヤマハの販売店で販売されていたり取り付けが行われた場合でも、保証および推奨できません。

アフターマーケット製品、アクセサリ、改造

デザインや品質面でヤマハ純正アクセサリと類似しているアフターマーケット製品でも、一部のアフターマーケット製品や改造は、安全上、問題となる場合があります。アフターマーケット製品の取り付けや、車両の設計特性や操作性を変えてしまうような

その他の改造を行うと、運転者や周囲の人が重傷や死亡に至る危険性を高める場合があります。車両の加工や改造に関連したけがや損害については、使用者の自己責任となります。

アクセサリを取り付ける場合は、次のことに注意してください。

- 車の性能を損なうアクセサリを取り付けしないでください。アクセサリを装備する場合は、アクセサリの取り付けによって、地上高やコーナリングクリアランスが減らないか、サスペンションの動き、ステアリングの取り回し、制御操作が妨げられないかを、事前に念入りに点検してください。
- ハンドルやフロントフォークにアクセサリを取り付けると、重量配分の変化によって安全性が損なわれる場合があります。ハンドルやフロントフォークにアクセサリを取り付ける場合は、できるだけ軽量のものを最小限取り付けるようにしてください。
- 大型でかさばるアクセサリは、車の安定性に大きな影響を与える場合があります。風を受けて車が浮き上がりそうになったり、横風にバランスを崩される可能性があります。
- アクセサリによっては、運転者が通常の乗車位置に座れなくなる場合があります。乗車位置が不適切だと体の動きが制限され、車両制御に影響を与えるおそれがあるため、こうしたアクセサリの装備はおすすめしません。

- 電装アクセサリーの取り付けには注意が必要です。電装アクセサリーが電気系統の容量を超えると、電気系統が故障し、照明装置などの機能低下やエンジン出力低下の原因となり危険です。

アフターマーケット製のタイヤとリム

車両に装着されているタイヤとリムは、車両の性能に合わせて、最適な操縦性、制動性、乗り心地が得られるように設計されています。指定外のタイヤ、リム、サイズを組み合わせる装着は、不都合が生じる場合があります。タイヤの仕様と交換について、7-14ページを参照してください。

運搬

車を運搬する際は、下記の内容を必ず守ってください。

- 車から、運搬中落下の可能性がある部品を取り外してください。
- フューエルコック装備車の場合、フューエルコックが OFF になっているか、また燃料漏れしていないかを確認してください。
- トレーラーの上またはトラックの荷台で、車のフロントホイールをまっすぐにし、フロントホイールをレールなどでしっかりと固定してください。
- マニュアルミッション車の場合、ギヤを入れてください。
- しっかりとした部分、例えばフレームまたはフロントフォークのアンダーブラケットなどを、固定用ベルトまたは適当なひもを使用して固定してください。（ラバーマ

ウントのハンドルまたは方向指示灯などの壊れやすい部分を固定しないでください。）なお、運搬中に塗装面をこすらないように、慎重にひもを掛ける場所を選んでください。

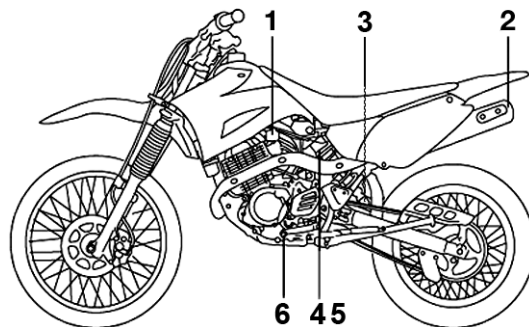
- 運搬中に車がおおしくバウンドしないように、固定用ベルトなどでリヤサスペンションをある程度まで圧縮させてください。

各部の名称

JAU10411

左側面

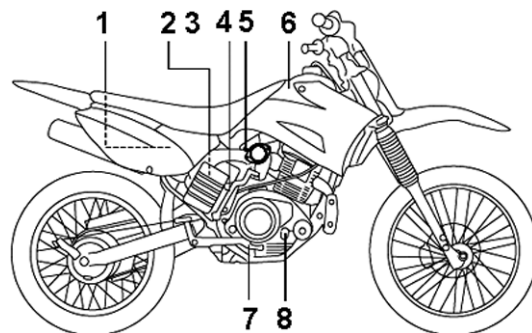
3



1. フューエルコック (P4-5)
2. スパークアレスター (P7-11)
3. 伸側減衰力アジャスター (P4-7)
4. リヤクッションスプリングプリロードアジャスター (P4-7)
5. 圧側減衰力アジャスター (P4-7)
6. シフトペダル (P4-2)

右側面

3



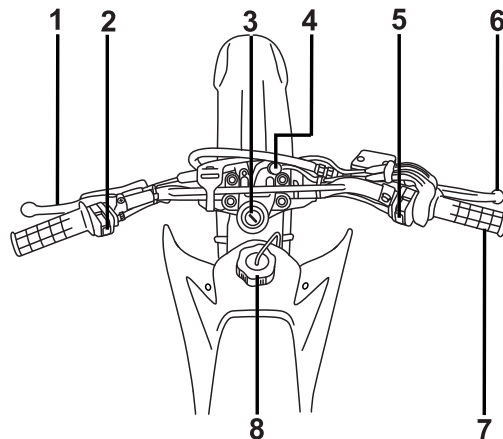
1. エアクリナー (P7-10)
2. バッテリー (P7-26)
3. ヒューズ (P7-27)
4. キックスターター (P4-6)
5. スロットルストップスクリュー (P7-12)
6. フューエルタンク
7. オイル注入口 (P7-8)
8. ブレーキペダル (P4-3)

各部の名称

JAU10431

運転装置と計器類

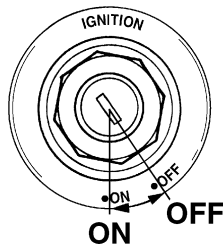
3



1. クラッチレバー (P7-16)
2. エンジンストップスイッチ (P 4-1)
3. メインスイッチ (P4-1)
4. チョークノブ (P4-5)
5. スタータースイッチ (P 4-1)
6. フロントブレーキレバー (P4-2)
7. スロットルグリップ (P7-13)
8. フューエルタンクキャップ (P4-3)

メインスイッチ

JAU40341



メインスイッチはエンジンの始動と停止、電源の「入/切」を行います。メインスイッチには以下のポジションがあります。

ON

JAU10631

全ての電気回路に電源が供給され、エンジンを始動させることができます。キーを抜くことはできません。

OFF

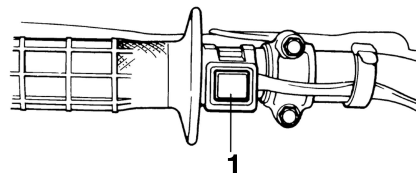
JAU46011

全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

ハンドルスイッチ

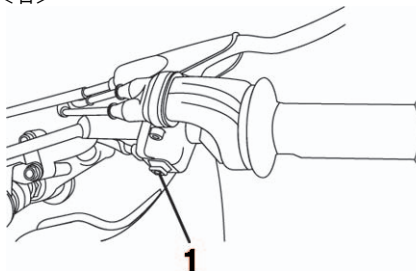
JAU1234T

<左>



1. エンジnstoppスイッチ “ENGINE STOP”

<右>



1. スタータースイッチ “(⊗)”

要 点

スイッチは、エンジンが停止するまで押し続けてください。

スタータースイッチ “(⊗)”

JAU12713

このスイッチを押すと、スターターモーターが回転し、エンジンが始動します。

JCA11882

注 意

- スターターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。
- エンジンを始動させる前に、6-2 ページの始動手順を参照してください。

エンジnstoppスイッチ “ENGINE STOP”

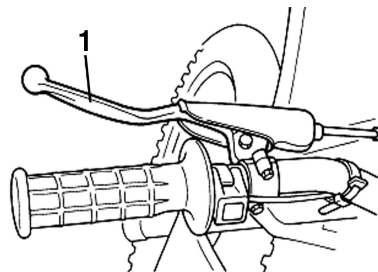
JAU53962

スイッチを押すとエンジンは停止します。

各部の取り扱いと操作

JAU31642

クラッチレバー



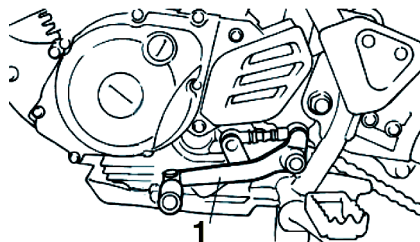
1. クラッチレバー

クラッチレバーは、ハンドルの左側に取り付けられています。クラッチを切るにはレバーを握ります。クラッチをつなげるにはレバーを放します。レバーを握るときは早く、放すときはゆっくりと行くと、スムーズなクラッチ操作ができます。

クラッチレバーには、スターティングカットオフシステムの一部となるクラッチスイッチが装備されています。(4-9 ページ参照)

JAU12876

シフトペダル

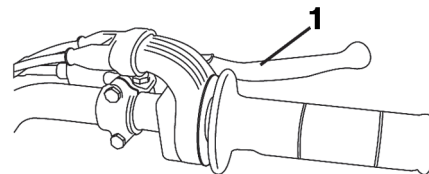


1. シフトペダル

シフトペダルは車両の左側にあります。シフトアップするにはシフトペダルを上動かします。シフトダウンするにはシフトペダルを下動かします。(6-3 ページ参照)

JAU12892

ブレーキレバー

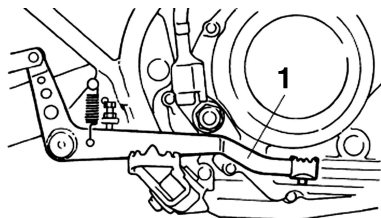


1. ブレーキレバー

ブレーキレバーは、ハンドルの右側に取り付けられています。フロントブレーキをかけるには、このレバーをスロットルグリップに向けて握ります。

ブレーキペダル

JAU12944



1. ブレーキペダル

ブレーキペダルは、車体の右側にあります。リヤブレーキをかけるには、ブレーキペダルを踏み込みます。

フューエルタンクキャップ

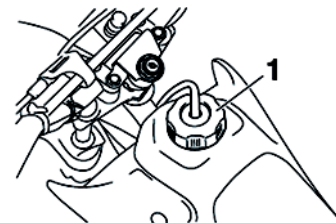
JAU13183

JWA12172

⚠ 警告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。
- 給油限度（フィルターチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。



1. フューエルタンクキャップ

フューエルタンクキャップを取り外すときは、キャップを反時計方向に回して取り外します。

フューエルタンクキャップを取り付けるときは、キャップを給油口に挿入し、時計方向に回して取り付けます。

JWA11092

⚠ 警告

運転する前に、フューエルタンクキャップが正しく締まっているか確認してください。

各部の取り扱いと操作

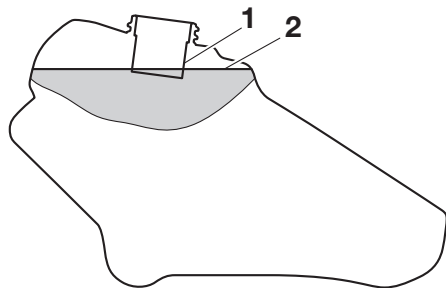
燃料

JAU13213

JAU28313

JAU13414

4



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクに十分な燃料が入っているか、確認してください。図のようにフィラーチューブの下部まで給油してください。

JWA10882

警告

- 給油限度を超えてガソリンを入れると、ガソリンが温まって膨張したときにあふれるおそれがあります。
- 高温のエンジンにガソリンをこぼさないように注意してください。

JCA10072

注意

こぼれたガソリンは、きれいな乾いた柔らかい布で直ちにふき取ってください。放置しておくと、塗装面やプラスチック部分を損傷するおそれがあります。

指定燃料

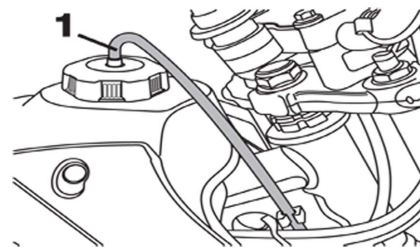
指定燃料：
無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
約 6.0 L

JCA12512

注意

- 必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

フューエルタンクブリーザーホース



1. フューエルタンクブリーザーホース

乗車の前に：

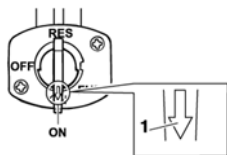
- フューエルタンクブリーザーホースの接続を点検します。
- フューエルタンクブリーザーホースを点検します。ひび、損傷がある場合はヤマハ販売店へ交換を依頼してください。
- フューエルタンクブリーザーホースがつまっていないか確認し、必要に応じて清掃します。

フューエルコック

JAU13563

OFF

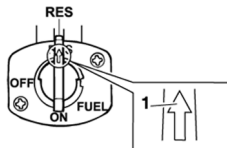
ON



1. "ON"

始動および走行時のレバー位置です。

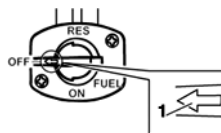
RES



1. "RES"

予備燃料（予備容量約 0.8 L）を使用するときのレバー位置です。

ON で走行中にガソリンがなくなったら、レバーをこの位置にします。予備燃料が使用できますが早めに給油してください。給油を終えたらレバーを ON に戻してください。



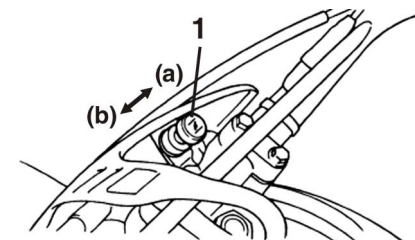
1. "OFF"

駐車時のレバー位置です。
ガソリンは流れません。

要 点

長期間使用しないときは、レバーを必ず OFF の位置にしてください。

チョークノブ "||"



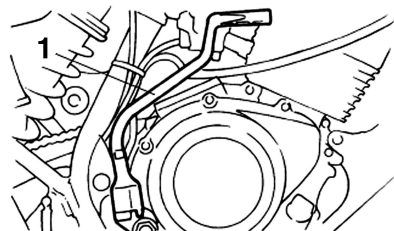
1. チョークノブ "||"

エンジンが冷えているときは、チョークを使用するとエンジン始動が容易になります。ノブを (a) 方向に移動させ、チョークをオンにします。ノブを (b) 方向に移動させ、チョークをオフにします。

各部の取り扱いと操作

キックスターター

JAU13661



1. キックスターターレバー

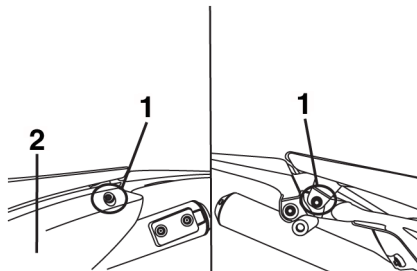
スタータースイッチを押しても、エンジンが始動しない場合、キックスターターで始動してください。キックスターターでエンジンを始動するには、キックスターターレバーを出し、力強く下にキックします。この車はギヤの位置にかかわらず、クラッチレバーを握れば始動できるプライマリーキック方式を採用していますが、ギヤをニュートラルにしてからキックしてください。

シート

JAUW0485

シートの取り外しかた

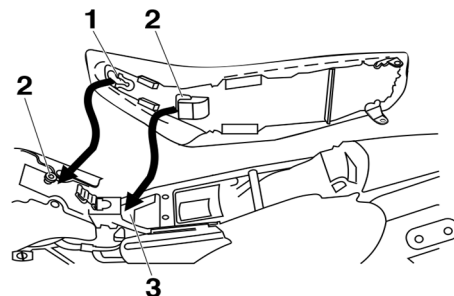
1. カバー A を取り外します。(7-6 ページ参照)
2. ボルトを取り外します。
3. シートとカバー C を締め付けているボルトを取り外します。
4. シートを引いて取り外します。



1. ボルト
2. カバー C

シートの取り付けかた

1. 図のようにシート前部の溝をフューエルタンクの上の突起に合わせ、シートの上の突起をホルダーに差し込みます。



1. 溝
2. 突起
3. ホルダー

2. シートとカバー C を元の位置に合わせて、ボルトを取り付けます。
3. カバー A を取り付けます。

要 点

乗車する前に、シートが正しく取り付けられていることを必ず確認します。

フロントフォークの調整

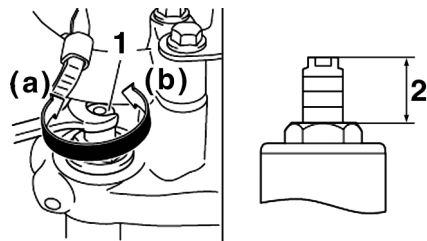
JAU14726

JWA10181

⚠ 警告

左右のフォークは同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

フロントフォークには、プリロードアジャスターが装備されています。



1. アジャスター
2. セット長 A

アジャスターを (a) 方向に回すと、スプリングプリロードが多くなります。アジャスターを (b) 方向に回すと、スプリングプリロードが小さくなります。

スプリングプリロード:

- 最小 (ソフト):
セット長 A = 14.0 mm
- 標準:
セット長 A = 14.0 mm
- 最大 (ハード):
セット長 A = 4.0 mm

JCA10102

注意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

リヤクッションの調整

JAUW4222

リヤクッションには、スプリングプリロードアジャスター、伸側減衰力アジャスターおよび圧側減衰力アジャスターが装備されています。

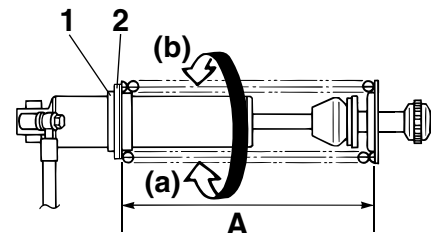
JCA10102

注意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

スプリングプリロード

1. ロックナットをゆるめます。
2. プリロードアジャスターを (a) 方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b) 方向に回すと小さくなります。



1. ロックナット
2. スプリングプリロードアジャスター

各部の取り扱いと操作

スプリングプリロードのセッティングは、図のセット長 A を測定して決めます。セット長 A を短くすると、スプリングプリロードは大きくなり、長くすると小さくなります。

要 点

この調整に使うスペシャルレンチはヤマハ販売店で入手できます。

スプリングプリロード：

最小（ソフト）：

セット長 A = 167.5 mm

標準：

セット長 A = 160.5 mm

最大（ハード）：

セット長 A = 147.5 mm

3. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

ロックナット：

42 N·m (4.2 kgf·m)

JCA10122

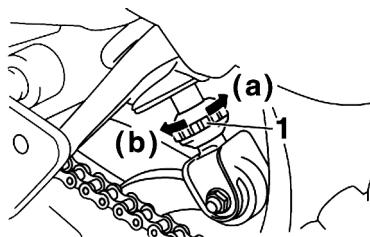
注 意

ロックナットはアジャスターにあたるまで締め込んでから、規定のトルクで締め付けてください。

伸側減衰力

減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、伸側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。

減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：

最小（ソフト）：

(b) 方向へ 20 段

標準：

(b) 方向へ 12 段

最大（ハード）：

(b) 方向へ 0 段

要 点

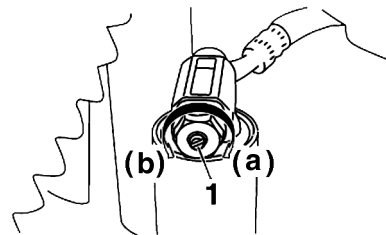
- アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。

- アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

圧側減衰力

減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、圧側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。

減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力：

最小（ソフト）：

(b) 方向へ 18 段

標準：

(b) 方向へ 9 段

最大（ハード）：

(b) 方向へ 0 段

要 点

- アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

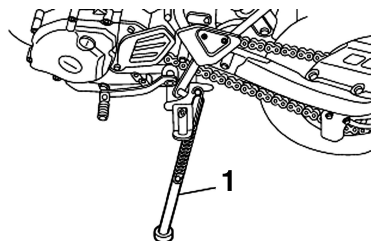
JWA10222

警告

リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- シリンダー本体を加工または分解しないでください。
- リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。
- シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。
- 損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。
- 点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。

サイドスタンド



1. サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

JWA14251

警告

- サイドスタンドを出したまま走行すると、スタンドが地面に接触して運転操作に支障をきたすことがあり、たいへん危険です。
- 走行中にサイドスタンドを操作すると、思わぬ事故の原因となります。走行中はサイドスタンドを操作しないでください。

要 点

サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、取付部に注油してください。

スターティングサーキットカットオフシステム

スターティングサーキットカットオフシステムはギヤが入っている状態でのエンジン始動を防止します。

スターティングサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

要 点

- この点検は、エンジンが暖まった状態で行うと信頼性が最も高まります。
- スイッチ操作については、4-1 ページ、4-1 ページを参照してください。

各部の取り扱いと操作

4

エンジンを停止した状態で：

1. メインスイッチをONにします。
2. ギアをニュートラルに入れます。
3. スタータースイッチを押します。もしくは
キックスターターレバーを下にキックします。

エンジンは始動しましたか？

はい いいえ

4. エンジンストップスイッチを押します。
5. ギアを入れます。
6. クラッチレバーを握ります。
7. スタータースイッチを押します。もしくは
キックスターターレバーを下にキックします。

エンジンは始動しましたか？

はい いいえ

システムは正常です。走行可能です。

⚠ 警告

点検の結果異常があった場合は、走行前に
ヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
走行しないでください。すぐにヤマハ販売店
にて点検を受けてください。

クラッチスイッチの故障が考えられます。
走行しないでください。すぐにヤマハ販売店
にて点検を受けてください。

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、走行前点検リストに基づいた日常点検を必ず実施してください。

警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)

走行前点検リスト

項目	点検、整備内容	参照ページ
燃料	● フューエルタンクの残量を点検します。 ● 必要に応じて補給します。 ● 燃料の漏れがないか点検します。 ● フューエルタンクブリーザーホースにつまり、ひび、損傷がないか、また正しく接続されているか点検します。	4-4, 4-4
エンジンオイル	● オイル量を点検します。 ● 必要に応じて指定のオイルを規定量まで補充します。 ● オイル漏れがないか点検します。	7-8
フロントブレーキ	● 作動を点検します。 ● レバーの操作具合が柔らかいか、スポンジを握るようなフワフワの感覚であれば、ヤマハ販売店で油圧系統のエア抜きを行ってください。 ● ブレーキレバーの遊びの量を点検します。 ● 必要に応じて調整します。 ● ブレーキパッドの摩耗を点検します。 ● 必要に応じて交換します。 ● ブレーキ液の量を点検します。 ● 必要に応じて指定のブレーキ液を規定の量まで補充します。 ● 油圧系統に漏れがないか点検します。	7-17, 7-19, 7-19

日常点検

5

項目	点検、整備内容	参照ページ
リヤブレーキ	● 作動を点検します。 ● ブレーキペダルの遊びの量を点検します。 ● 必要に応じて調整します。	7-17, 7-19
クラッチ	● 作動を点検します。 ● レバーの遊びを点検します。 ● 必要に応じて調整します。 ● 必要に応じてケーブルに注油します。	7-16
スロットルグリップ	● 作動がスムーズであるか点検します。 ● スロットルグリップの遊びを点検します。 ● 必要に応じて、ヤマハ販売店へスロットルグリップの遊びの調整、ケーブルおよびグリップハウジングの注油を依頼します。	7-13, 7-22
ドライブチェーン	● チェーンのたわみ量を点検します。 ● 必要に応じて調整します。 ● チェーンの状態を点検します。 ● ヤマハ 180 チェーンオイルを給油します。	7-20, 7-21
ホイールとタイヤ	● ホイールに損傷がないか点検します。 ● タイヤの状態と溝の深さを点検します。 ● 空気圧を点検します。 ● 必要に応じて調整、交換します。	7-14, 7-15
ブレーキペダルとシフトペダル	● 作動がスムーズであるか点検します。 ● 必要に応じてペダルの取り付け部に注油します。	7-22
ブレーキレバーとクラッチレバー	● 作動がスムーズであるか点検します。 ● 必要に応じてレバーの取り付け部に注油します。	7-23
サイドスタンド	● 作動がスムーズであるか点検します。 ● 必要に応じて取り付け部に注油します。	7-23
車体の締付具合	● ナット、ボルト、スクリューが規定トルクで締まっているか点検します。 ● 必要に応じて締め付けます。	—
エンジンストップスイッチ	● 作動を点検します。	4-1

JAU98890

JWA14621



警告

- この車両はオフロード専用です。乗車前に各部の取り扱いと操作に慣れてください。操作で不明な場合はヤマハ販売店にご相談ください。
- 風通しの悪い場所でエンジンを始動したり、かけたままにしないでください。排気ガスには毒性があり、短時間のうちに意識を失ったり、死を招くおそれがあります。常に風通しのよい場所でエンジンを始動してください。
- 発進の前に、サイドスタンドを上げてください。サイドスタンドを正しく上げないと地面に接地し、ライダーを混乱させたり、操縦安定性を損なわせるおそれがあります。

ならし運転

最初の20時間のならし運転は、エンジンの寿命にとって重要です。同じようにこの期間、ライダーがバイクになれることも重要です。以下の説明をよくお読みください。エンジンは新品ですので、最初の20時間は過度な負荷をかけないでください。エンジン内の各部品が互いに摩擦、摺動することで正しい作動クリアランスとなります。この期間中、エンジンのオーバーヒートになりかねない長時間の全開運転は避けてください。しかし、短時間（最大2～3秒）であれば、スロットルを全開にしてもエンジンに悪影響はありません。スロットルを全開にする操作は、休み休み行ってください。また、スロットル全開操作により熱を持ったエンジンを冷やすために、低いエンジン回転数で走行しながら行ってください。

慣らし運転後、部品がゆるんでいないか、オイル洩れや問題がないかを念入りに点検してください。特にケーブルやドライブチェーンのゆるみ、スポークの緩みの点検、調整をしてください。さらに、各部のゆるみを点検し、必要であれば締め付けます。

0～10時間

- スロットル開度 1/2 以上での長時間運転は避けてください。
- 使用1時間毎にエンジンを止めて、5～10分冷やしてください。

JAU16851

- 時々エンジン回転数を変えてください。同じスロットルポジションでのエンジンの使用を避けてください。

10～20時間

- スロットル開度 3/4 以上での長時間運転は避けてください。
- 全てのギヤでエンジン回転数を上げてください。その時でも、スロット全開にはしないでください。

慣らし運転期間後

スロット全開での長時間運転は避けてください。時々エンジン回転数を変えてください。

JCA10271

注意

ならし運転の間にエンジントラブルが発生したときは、すぐにヤマハ販売店にて車両を点検してください。

運転操作

エンジン始動（エンジンが冷えているとき）

JAUW0504

スターティングカットオフシステムは次のときにエンジンを始動させることができます。

- ギヤをニュートラルに入れている、もしくは
- クラッチレバーを握っている

エンジンを始動する

1. フューエルコックを ON にします。
2. メインスイッチを ON にします。
3. ギヤをニュートラルに入れます。
4. チョークをオンにし、スロットルを完全に閉じます。(4-5 ページ参照)
5. スタートスイッチを押すか、キックスターターレバーを下にキックしてエンジンを始動します。
6. エンジンが始動したらスタータースイッチを離します。スタータースイッチを押しても5秒以内にエンジンが始動しない場合は、バッテリー電圧を回復させるため、10秒位休ませてからスタータースイッチを押してください。
7. エンジンの始動後は、チョークノブを半分戻します。
8. エンジンが暖まってきたら、徐々にチョークノブを戻していきます。
9. エンジンが通常通りにアイドリングしたら、チョークをオフにします。

10. スロットルを開けてみて、エンジンが暖機されたか確認します。エンジンがすぐに反応すればエンジンは暖機されています。通常どおり使用できます。

要 点

- 余分な排気ガスを減らすため、必要以上にチョークを使用しないでください。
- チョークの使用が必要になる状況は、気温とエンジンを始動していない期間によって異なります。気温が低く、エンジンをしていない期間が長ければ、チョークの使用が必要となる時間も長くなります。

JCA15992

注 意

- エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。
- 長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。
- 通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（アイドルアジャスターの誤った調整や、スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。

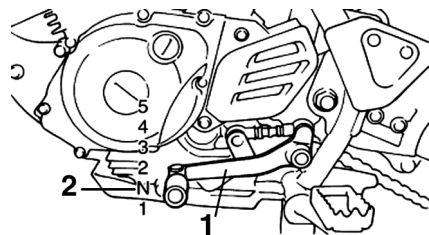
エンジン始動（エンジンが暖まっているとき）

JAU16641

エンジンが暖まっているときは、チョークを必要としないことを除いて、エンジンが冷えている時のエンジン始動と同じ手順で行います。

ギヤチェンジのしかた

JAU16675



1. シフトペダル
2. ニュートラル

ギヤチェンジを行って発進、加速や坂道を登るときなどに必要なエンジンのパワーを調整します。
ギヤの位置は図に示すようになっています。

要 点

ニュートラル（**N**）にシフトするには、繰返しシフトダウンして一番下の位置になったところで、わずかにシフトアップします。

JCA10262

注 意

- シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。
- ギヤがニュートラル位置であっても、エンジンを停止したまま長い間惰性走行を行ったり、長い距離をけん引したりしないでください。エンジンが停止していると

ランスミッションの潤滑が不十分になり、トランスミッションが損傷するおそれがあります。

- クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。

ブレーキ

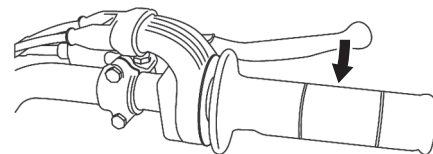
1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にかけます。

<フロントブレーキ>

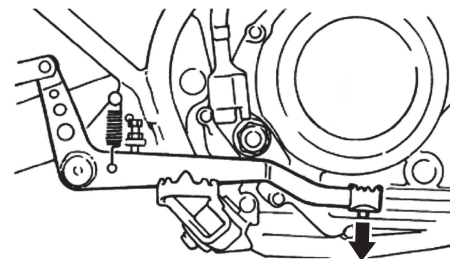
JAU16691

発進と加速のしかた

1. クラッチレバーを握ります。
2. ギヤを1速に入れます。
3. 少しづつスロットルを開け、ゆっくりとクラッチレバーを放して発進します。
4. 車が変速に適した速度に達したら、スロットルを閉じます。すばやく、クラッチレバーを握ります。
5. ギヤを2速に入れます。（ギヤがニュートラルに入らないように注意してください。）
6. 半分スロットルを開け、徐々にクラッチレバーを放します。
7. 次のギヤに変速するときは同じ手順で行ってください。



<リヤブレーキ>



減速のしかた

JAU16711

1. スロットルを完全に閉じます。フロントブレーキとリヤブレーキを同時に徐々にかけます。
2. 順にシフトダウンして行き、車両が停止したらギヤをニュートラルに入れます。

運転操作

JWA11573

JAU17173

⚠ 警告

- 急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。
- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜き、フューエルコックをオフにします。

JWA10312

⚠ 警告

- エンジンとエキゾーストシステムは非常に高温になることがあるので、歩行者や子供がそれらに触れないような場所に駐車してください。
- 斜面や軟弱な地面には駐車しないでください。車が転倒するおそれがあります。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。

JAU17294

安全を保つことは所有者の義務のひとつです。定期的な点検、調整や注油によって、車両の安全性と本来の性能を保つことができます。点検、調整や注油の重要なポイントについて以下の各ページで説明します。

JWA10322

警告

点検整備を怠ったり正しく整備を行わないと、乗車中や整備中、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。整備作業について自信がない場合は、ヤマハ販売店に作業を依頼してください。

JWA15461

警告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が十分に冷えてから行ってください。

JAU46071

定期点検整備

車両の正しい定期点検整備は、長くバイクを楽しんでいただく上で重要です。特に重要なことは、排気ガスに関連した部分の保守整備です。これらの部分は、よりクリーンな排気を保つ働きをするだけでなく、エンジンが十分に性能を発揮するためにも重要です。以下の定期点検整備表では、排気ガスに関連した点検整備項目は別にグループ化されています。整備には、各種のデータ、知識、器具が必要です。ヤマハ販売店は、これらの整備を行なう上での訓練を受けており、設備も備わっています。

JWA10341

警告

ヤマハが認可しない改造は、性能を低下させたり、排気ガスを悪化させたり、安全性を低下させたりするおそれがあります。変更を行う前にヤマハ販売店にご相談ください。

点検整備

JAU39945

定期点検項目（排ガス関連）

要 点

- 7000 km または 18 か月目以降は、3000 km または 6 か月目の点検項目に戻って点検整備を繰り返してください。
- * 印の項目は、特殊工具、データ、技能を必要とするため、ヤマハ販売店に点検整備をご依頼ください。

No.	項目	点検整備内容	初回	オドメーター表示	
			1000 km（1 か月目または 30 時間）	3000 km（6 か月目または 90 時間）	5000 km（12 か月目または 150 時間）
1	* 燃料系統	● 燃料ホースに亀裂や損傷がないか点検します。 ● 必要に応じて交換します。		√	√
2	スパークプラグ	● 状態を点検します。 ● ギャップを調整し、清掃します。		√	√
3	* バルブクリアランス	● エンジンが冷えているときに、バルブクリアランスの点検と調整を行います。			√
4	* エアクリーナーエレメント	● きれいな灯油で洗浄します。 ● 必要に応じて交換します。		√	√
5	* クランクケースブリーザーシステム	● ベンチレーションホースに亀裂や損傷がないか点検し、堆積物を排出します。 ● 必要に応じて交換します。	√	√	√
6	* キャブレター	● アイドリング回転数を点検します。 ● 必要に応じて調整します。	√	√	√
7	排気系統	● 漏れがないか点検します。 ● 必要に応じて締め付けます。 ● 必要に応じてガスケットを交換します。		√	√
8	* スパークアレスター	● 清掃します。			√
9	エンジンオイル	● 交換します。（オイルを抜く前にエンジンを 2 ～ 3 分間、アイドリング運転してください。）	√	√	√

定期点検整備項目（一般）と給油

要 点

- 7000 km または 18 か月目以降は、3000 km または 6 か月目の点検項目に戻って点検整備を繰り返してください。
- * 印の項目は、特殊工具、データ、技能を必要とするため、ヤマハ販売店に点検整備をご依頼ください。

No.	項目	点検整備内容	初回	オドメーター表示	
			1000 km（1 か月目または 30 時間）	3000 km（6 か月目または 90 時間）	5000 km（12 か月目または 150 時間）
1	* クラッチ	● 作動を点検します。 ● 必要に応じ調整します。	√	√	√
2	* フロントブレーキ	● 作動、ブレーキ液の量と漏れを点検します。 ● ブレーキレバーの遊びの量を調整し、必要ならブレーキパッドを交換してください。	√	√	√
3	* リヤブレーキ	● 作動を点検します。 ● ブレーキペダルの遊びの量を調整し、必要ならブレーキシューを交換してください。	√	√	√
4	* ブレーキホース	● ホースのひび割れ、損傷がないか点検します。 ● 正しく取り回されているか、取り付けられているか点検します。		√	√
		● 交換します。	4 年毎		
5	* ブレーキ液	● 交換します。	2 年毎		
6	* ホイール	● 振れを確認し損傷がないか点検します。 ● 必要に応じてスポークを締め付けます。	√	√	√
7	* タイヤ	● 溝の深さを確認し、損傷がないか点検します。 ● 必要に応じて交換します。 ● 空気圧を点検します。 ● 必要に応じて修正します。		√	√
8	* ホイールベアリング	● 作動が滑らかであるか点検します。 ● 必要に応じて交換します。		√	√
9	* スイングアーム取り付け部のベアリング	● ベアリングのがたを点検します。 ● ヤマハモリブデングリースを注油します。		√	√

点検整備

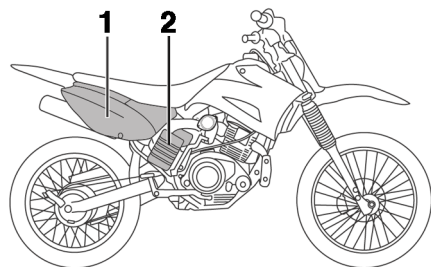
No.	項目	点検整備内容	初回	オドメーター表示	
			1000 km (1 か月目または 30 時間)	3000 km (6 か月目または 90 時間)	5000 km (12 か月目または 150 時間)
10	ドライブチェーン	- チェーンの張り、たわみと状態を点検します。 - 調整してヤマループ 180 チェーンオイルを給油します。	乗車毎		
11	* ステアリングベアリング	- ベアリングに緩みがないか点検します。 - ヤマハグリース B を塗布します。	√		√
12	* 車体の締め付け具合	- 車体各部の締め付け具合を確認します。 - 必要に応じて増し締めします。	√	√	√
13	ブレーキレバーピボットシャフト	シリコングリース G30M を薄く塗布します。		√	√
14	ブレーキペダルピボットシャフト	ヤマハグリース B を薄く塗布します。		√	√
15	クラッチレバーピボットシャフト	ヤマハグリース B を薄く塗布します。		√	√
16	シフトペダルピボットシャフト	ヤマハグリース B を薄く塗布します。		√	√
17	サイドスタンドピボット	- 作動を点検します。 - ヤマハグリース B を薄く塗布します。	√		√
18	* フロントフォーク	- 作動とオイル漏れがないかを点検します。 - 必要に応じて交換します。		√	√
19	* リヤクッション	- 作動を確認しリヤクッションにオイル漏れがないか点検します。 - 必要に応じて交換します。			√
20	* リアサスペンションリンクピボット	作動を点検します。		√	√
		ヤマハモリブデングリースを塗布します。			√
21	* コントロールケーブル	ヤマループ 180 ワイヤグリースを注油します。	√	√	√
22	* スロットルグリップ	- 作動を点検します。 - グリップの遊びを点検し、必要に応じて調整します。 - グリップハウジングとケーブルに注油します。	√	√	√

要 点

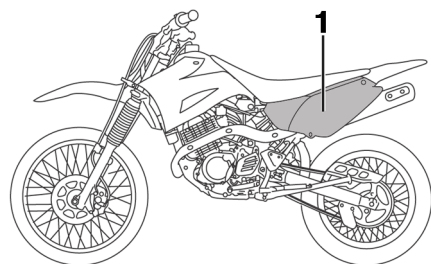
- 著しく湿気やほこりの多い地域で走行している場合は通常より多めにエアクリーナーエレメントを点検整備する必要があります。
 - 油圧式ブレーキの点検整備
 - 定期的に点検を行い、必要に応じてブレーキ液を補充してください。
 - マスターシリンダーとキャリパー内のパーツ、およびブレーキ液は2年毎に交換してください。
 - ブレーキホースは4年毎、または亀裂や損傷がある場合は交換してください。
-

カバーの取り外し、取り付け

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。



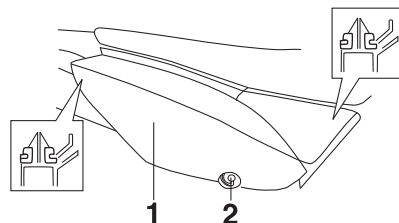
1. カバー A
2. カバー B



1. カバー C

カバー A

カバーの取り外しかた
クイックファスナーを反時計回りに回して、カバーを取り外します。

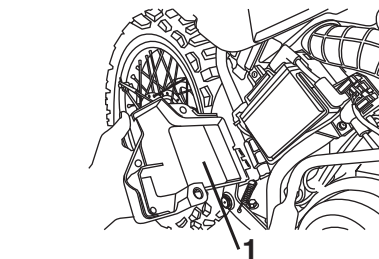


1. カバー A
2. クイックファスナー

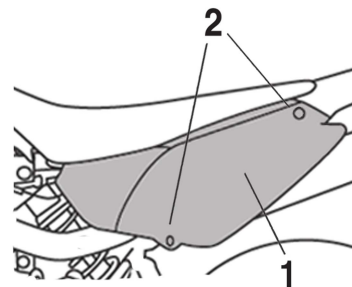
カバーの取り付けかた
カバーを元の位置に戻して、クイックファスナーを押しながら時計回りに回します。

カバー B と C

カバーの取り外しかた
ボルトを取り外して、カバーを取り外します。



1. カバー B



1. カバー C
2. ボルト

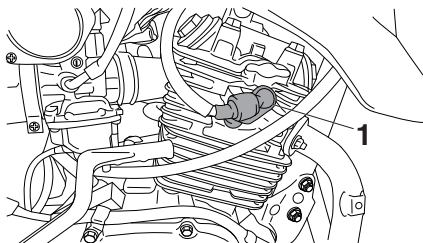
カバーの取り付けかた
カバーを元の位置に戻して、ボルトを取り付けます。

スパークプラグの点検

スパークプラグはエンジンの重要な部品のひとつで、簡単に点検することができます。熱や堆積物により、どんなスパークプラグでも徐々に腐食が進むため、スパークプラグは必ず「定期点検整備項目（一般）と給油」に従って取り外し、点検してください。また、スパークプラグの状態によって、エンジンの状態がわかることもあります。

スパークプラグの取り外しかた

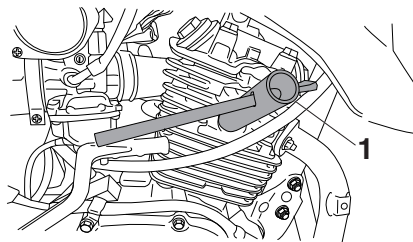
1. スパークプラグキャップを取り外します。



1. スパークプラグキャップ

2. 図のようにスパークプラグを取り外します。スパークプラグレンチはお買いあげのヤマハ販売店で求められます。

JAU19614



1. スパークプラグレンチ

スパークプラグの点検のしかた

1. スパークプラグの中心電極の周りのガイズが淡いキツネ色になっているかを点検します。（淡いキツネ色に焼けているのが理想です。）

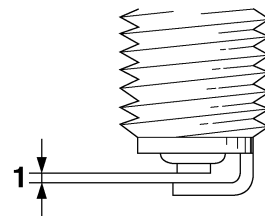
要 点

スパークプラグが明らかに違う色を示している場合は、エンジンが適正に運転されていない可能性があります。このようなときはご自分で判断を行わずにヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

2. スパークプラグを調べて電極の腐食や過度のカーボン、その他の堆積物がないかを確認し、必要に応じてスパークプラグを交換します。

指定スパークプラグ：
NGK/CR7HSA

3. シックネスゲージでスパークプラグのギャップを測定し、必要に応じて規定値に合うようにギャップを調整します。



1. プラグギャップ

スパークプラグギャップ：
0.6-0.7 mm

スパークプラグの取り付けかた

1. スパークプラグガスキットの表面と、その合わせ面を清掃し、スパークプラグのねじ山に汚れがあればふき取ります。
2. スパークプラグレンチを使ってスパークプラグを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
スパークプラグ：
13 N·m (1.3 kgf·m)

点検整備

JAUW043C

要 点

トルクレンチが利用できない場合は、スパークプラグを指で締め付け、さらにレンチで1/4から1/2回転させてください。ほぼ正しい締め付けトルクになります。しかし、できるだけ早く規定の締め付けトルクで締め付けてください。

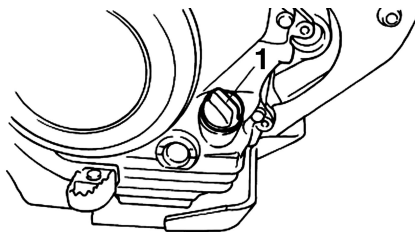
3. スパークプラグキャップを取り付けます。

エンジンオイル

エンジンオイルは乗車の前に毎回、点検してください。また、エンジンオイルは「定期点検項目（排ガス関連）」に指定されている時期に交換する必要があります。

エンジンオイル量の点検

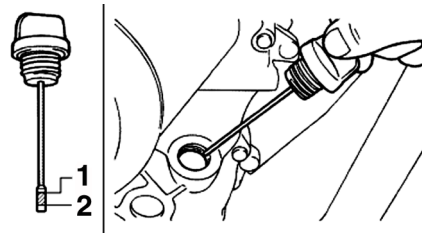
1. 車を平坦なところで垂直に立てます。オイル量を点検するときは、車体が垂直に立てられていることを確認してください。傾いていると正しく読み取れません。
2. エンジンを2～3分間アイドリング運転してから停止します。
3. 数分間待って、オイルが安定してからオイル注入口のキャップを外し、オイルレベルゲージをきれいに拭いてオイル注入口に（ねじ込まないで）差し込み、もう一度取り出してオイル量を点検します。



1. オイル注入口

要 点

オイル量はフルレベルとロアレベルの間にあるようにしてください。



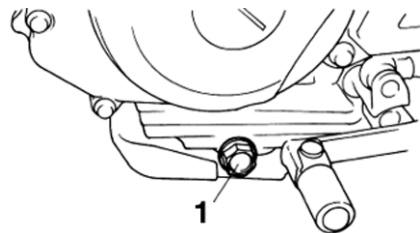
1. フルレベル
2. ロアレベル

4. もしもエンジンオイルの量がロアレベルに満たない場合は推奨されたオイルを規定のレベルまで補充します。
5. Oリングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。
6. オイルレベルゲージをオイル注入口に差し込み、キャップを締めます。

エンジンオイルの交換

1. エンジンを2～3分間アイドリング運転してから停止します。
2. ドレンボルトの下側にオイルパンを置きます。

3. オイル注入口のキャップ、ドレンボルトとガスケットを取り外し、クランクケースからオイルを抜き取ります。



1. ドレンボルト

4. 新しいガスケットとドレンボルトを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

エンジンオイルドレンボルト：
20 N・m (2.0 kgf・m)

5. 規定の量の推奨エンジンオイルを補充します。

推奨エンジンオイル

9-1 ページ参照

オイル容量：

1.00 L

注意

- クラッチの滑りを防ぐため（エンジンオイルにはクラッチの潤滑作用もあるため）、いかなる化学添加剤も混ぜないでください。ディーゼル車用の CD 級オイルや、指定よりも高いグレードのオイルは使わないでください。また、ENERGY CONSERVING II 以上のラベルのついたオイルは使わないでください。
- クランクケースに異物が入らないように注意してください。

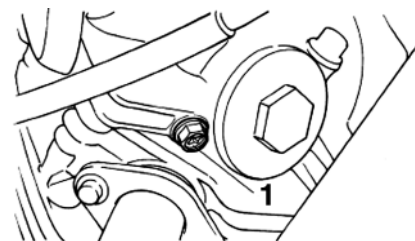
6. O リングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。
7. オイル注入口のキャップを取り付けてしっかりと締めます。
8. エンジンを始動し、数分間アイドルさせながらオイル漏れがないかを点検します。もし漏れていたらエンジンをただちに停止し、原因を調べてください。
9. エンジンを停止し、オイルレベルが安定するまで数分待ちます。その後、オイルレベルを確認し必要に応じて補給します。

注意

エンジンオイルを交換した後は、必ず以下の手順に従ってオイルプレッシャーを確認してください。

JCA11621

10. オイルプレッシャーチェックボルトを少し緩めてエンジンをアイドル状態にし、チェックボルトからエンジンオイルがにじみ出すまで維持します。2～3分経ってもエンジンオイルがにじみ出てこない場合はエンジンを停止し、ヤマハ販売店に点検を依頼してください。



1. オイルプレッシャーチェックボルト

11. オイルプレッシャーを点検したら、オイルプレッシャーチェックボルトを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

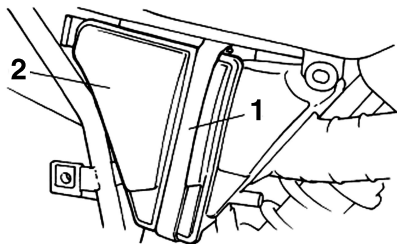
オイルプレッシャーチェックボルト：
7 N・m (0.7 kgf・m)

JCA10441

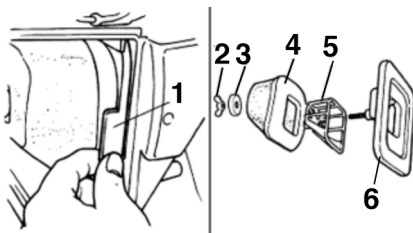
エアクリーナーエレメントの清掃

エアクリーナーエレメントの清掃

1. カバー A を取り外します。(7-6 ページ参照)
2. バンドを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。



1. バンド
2. エアクリーナーケースカバー
3. エアクリーナーケースからエアクリーナーエレメントアッセンブリーを引き出します。



1. エアクリーナーエレメントアッセンブリー
2. ウイングナット
3. ワッシャー
4. エアクリーナーエレメント
5. エアクリーナーエレメントフレーム
6. エアクリーナーエレメントガイド
4. ウイングナットを外して、エアクリーナーエレメントガイドを取り外します。
5. エアクリーナーエレメントフレームからエアクリーナーエレメントを取り外します。



6. エアクリーナーエレメントをきれいな灯油で洗浄して軽く絞ります。

JCA10512

注意

エアクリーナーエレメントが破損しないよう、力を入れず、曲げたり折ったりしないでください。

7. ヤマルーブ フィルターオイルをクリーナーエレメントの表面全体に塗布してから、布切れなどで包み、しぼります。

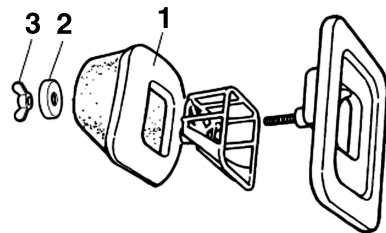
要点

エアクリーナーエレメントは湿った状態にしますが、たれる程にはしないでください。

指定オイル：

ヤマルーブ フィルターオイル

8. エアクリーナーエレメントをエアクリーナーエレメントフレームに取り付けて、エアクリーナーエレメントガイドを元の通りに組付けてからウイングナットを締め付けます。



1. エアクリーナーエレメント
2. ワッシャー
3. ウイングナット

9. エアクリーナーエレメントアッセンブリをエアクリーナーケースに取り付けます。

JCA15573

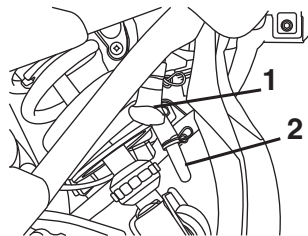
注意

メッシュとエアクリーナーエレメントがエアクリーナーケースに正しく装着されていることを確認してください。メッシュとエアクリーナーエレメントを取り付けないままエンジンを始動しないでください。これを行うと、ピストンやシリンダーの摩耗が激しくなります。

10. エアクリーナーケースカバーを取り付けて、バンドを取り付けます。
11. カバーを取り付けます。

エアクリーナーチェックホースの点検と清掃

1. エアクリーナーチェックホースを点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。



1. エアフィルターチェックホースプラグ
2. エアクリーナーチェックホース
2. 汚れや水がたまっていた場合は、ホースを取り外して清掃し、元に戻します。

スパークアレスターの清掃

スパークアレスターは「定期点検整備項目（一般）と給油」に示された時期に清掃を行ってください。

JWA10981

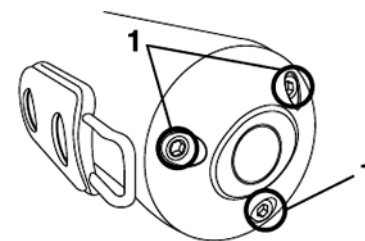
警告

- 排気系統の部品に触れる前に、排気システムを冷やしてください。
- 排気系統を清掃するときは、エンジンを始動しないでください。

要点

風通しが良く、可燃物がない場所でスパークアレスターの清掃を行ってください。

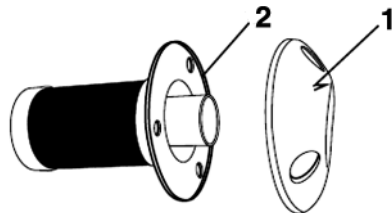
1. テールパイプ取り付けボルトとテールパイプキャップを取り外し、スパークアレスターをマフラーから引き出します。



1. テールパイプ取り付けボルト

点検整備

2. スパークアレスターを軽くたたいてからワイヤーブラシを使ってスパークアレスターと内部に堆積したカーボンを取り除きます。



1. テールパイプキャップ
2. スパークアレスター

3. スパークアレスターをマフラーに差し込み、テールパイプキャップとボルトを取り付けて、規定のトルクでボルトを締め付けます。

締め付けトルク：

テールパイプ取付ボルト：
10 N・m (1.0 kgf・m)

要 点

スパークアレスターを差し込むとき、ボルトの穴が合わさるようにしてください。

キャブレターの調整

キャブレターはエンジンの重要な部品で、非常に高度な調整が要求されます。キャブレターの調整はヤマハ販売店で行ってください。ただし、以下に示す調整は日常の整備のひとつとしてご使用のかたご自身でも調整できます。

注 意

キャブレターは工場で調整され、広範囲にテストを受けています。技術的な知識がない人がセッティングを変更すると、エンジン性能が低下したり、エンジンを損傷することがあります。

JAU39931

JCA10551

エンジンアイドルリング回転数の調整

エンジンアイドルリング回転数は「定期点検項目（排ガス関連）」に従って点検し、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。

要 点

この調整を行うには、測定用のタコメーターが必要です。

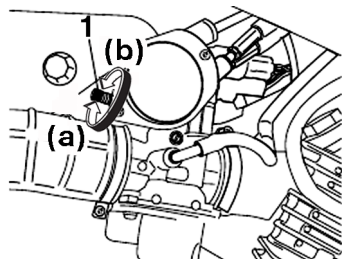
1. 測定用のタコメーターをスパークプラグのリード線に取り付けます。
2. エンジンを2～3分間、アイドルリング運転します。その後4000～5000回転まで回転を上げ、スロットルレスポンスを確認します。

要 点

スロットルレスポンスが良くなれば、エンジンは暖まっています。

3. エンジンのアイドルリング回転数を点検します。調整が必要な場合は、スロットルストップスクリューを調整しながら規定のエンジン回転数に設定します。エンジン回転数を上げるにはスクリューを(a)方向に回します。エンジン回転数を下げるにはスクリューを(b)方向に回します。

JAU21393



1. スロットルストップスクリュー

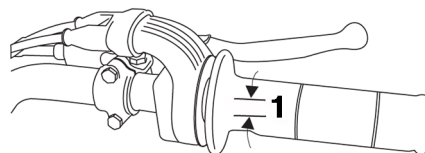
アイドリング回転数：
1300-1500 r/min

要 点

以上の手順で規定のアイドリング回転数に設定できない場合、ヤマハ販売店で調整を行ってください。

スロットルグリップの遊びの調整

スロットルグリップの遊びが規定の範囲にあるかを点検します。



1. スロットルグリップの遊び

スロットルグリップの遊び：

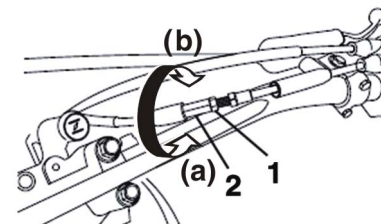
3.0-5.0 mm

スロットルグリップの遊びは定期的に点検し、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。

要 点

スロットルグリップの遊びを調整する前に、エンジンのアイドリング回転数の調整を正確に行う必要があります。

1. ロックナットをゆるめます。
2. スロットルグリップの遊びを増やすときはアジャスターを (a) 方向に、スロットルグリップの遊びを減らすときはアジャスターを (b) 方向に回します。



1. ロックナット
2. アジャスター

3. ロックナットを締め付けます。

点検整備

JAU21403

バルブクリアランス

バルブはエンジンの重要な構成部品です。バルブクリアランスは車の使用とともに変化するため、不適切な空燃比やエンジンの騒音につながります。この発生を防ぐため、「定期点検項目（排ガス関連）」に指示された時期にヤマハ販売店でバルブクリアランスの調整を行ってください。

要 点

この調整は、エンジンが冷えている状態で行ってください。

JAU64472

タイヤ

車の性能と耐久性を最大限に引き出しながら安全に乗っていただくために、指定のタイヤについて以下の点に注意してください。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧は乗車前に毎回点検して、必要に応じて調整してください。

JWA15371

警告

空気圧の確認は、**タイヤが冷えている状態（タイヤの温度と外気温が同じときに）**行ってください。

タイヤ空気圧：

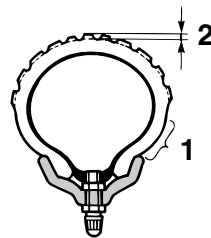
前輪：

100 kPa (1.00 kgf/cm²)

後輪：

100 kPa (1.00 kgf/cm²)

タイヤの点検



1. サイドウォール
2. 溝の深さ

タイヤは乗車前に毎回点検してください。タイヤ中央の溝の深さが使用限度に達していたり、釘やガラスの破片が刺さっていたり、あるいはサイドウォールに異常がある場合は、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

タイヤの溝の深さの使用限度：

4.0 mm

タイヤの情報

この車はチューブタイヤを装備しています。

JWA10462

警告

- 前後輪ともに同じメーカー、同じデザインのタイヤを使用してください。そうしなかった際のハンドリングの特性について、一切保証しません。

- ヤマハが、長期試験を経てこのモデル用に認定したタイヤは、下記のリストのものです。

前輪：

サイズ：
70/100-19 42M
メーカー／型式：
IRC/IX05H

後輪：

サイズ：
90/100-16 52M
メーカー／型式：
IRC/IX05H

JWA15542

警告

- 過度にすり減ったタイヤはヤマハ販売店で交換してください。過度にすり減ったタイヤで運転すると操縦安定性が低下し、制御不能になるおそれがあります。
- タイヤを含め、ホイールやブレーキ関連の部品交換はヤマハ販売店で行ってください。
- タイヤの交換をした後は、タイヤがリムに完全になじむよう、「ならし運転」をしてください。タイヤが完全になじんでいないと、車の損傷や運転者のケガにつながるおそれがあります。

スポークホイール

JAU21945

JWA10611

警告

このモデルのホイールは、チューブレスタイヤ用に設計されておりません。チューブレスタイヤは使用しないでください。

バイクの性能と耐久性を最大限に引き出しながら、永く、安全に乗っていただくために、指定ホイールに関する以下のポイントに注意してください。

- ホイールのリムにひびや曲がり、歪みやスポークのゆるみ、損傷がないか、乗車前に毎回点検してください。損傷があった場合、ヤマハ販売店でホイールを交換してください。ホイールに関してはたとえ小さな修理であっても行わないでください。変形したり、ひびが入っているホイールは必ず交換してください。
- スポークに緩みがないか確認します。緩みがあった場合、ヤマハ販売店でスポークの張りを調整してください。スポークの不適正な締め付けは、ホイールの振れを起こす原因となります。
- タイヤかホイールのどちらかを交換したら、必ずホイールのバランス取りを行ってください。ホイールのバランスが取れていないと、性能の低下やハンドリング特性の悪化、タイヤの寿命が縮まるおそれがあります。

アクセサリと交換部品

JAU46081

JWA14482

警告

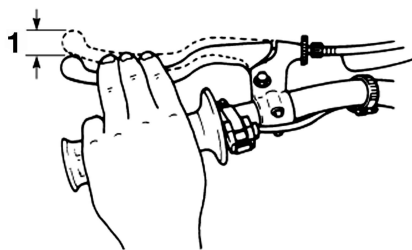
アクセサリや交換部品は、この車用に設計されたものでなければなりません。また、設計上の本来の安定性が維持されるよう、確実に装着されなければなりません。ヤマハ純正部品とアクセサリは、あなたのお車に合うよう設計され、テストされています。ご購入前にヤマハ純正部品とアクセサリのことを考慮に入れてください。ヤマハが認可していないアクセサリや交換部品の使用は、操縦安定性や安全運転に支障があることもあります。ヤマハは他社製のアクセサリや部品の品質について管理できませんので、ヤマハが認可していない部品の使用によって起きるあらゆる結果に対しては責任を負いかねます。

点検整備

JAU22038

クラッチレバーの遊びの調整

クラッチレバーの遊びが規定の範囲にあるかを点検します。



1. 遊び

クラッチレバーの遊び
10.0-15.0 mm

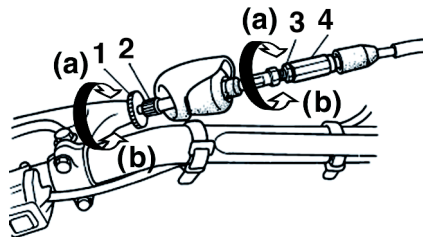
クラッチレバーの遊びは定期的に点検し、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。

1. クラッチレバー部のゴムカバーをずらします。
2. クラッチレバー部のロックナットをゆるめます。
3. クラッチレバーの遊びを増やしたいときは、クラッチレバー部のアジャスターを (a) 方向に回します。クラッチレバーの遊びを減らしたいときは、クラッチレバー部のアジャスターを (b) 方向に回します。

要 点

上記の調整でクラッチレバーの遊びが適正になった場合は、4～8の作業は不要です。

4. クラッチレバー部のアジャスターを (a) 方向にいっぱいまで回して、クラッチケーブルをゆるめます。
5. クラッチケーブル部のゴムカバーをずらします。
6. クラッチケーブル部のロックナットをゆるめます。



1. ロックナット (クラッチレバー)
2. アジャスター
3. ロックナット (クラッチケーブル)
4. アジャスター

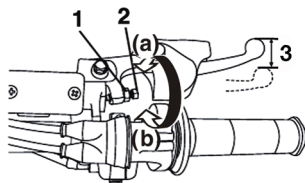
7. クラッチレバーの遊びを増やしたいときは、クラッチケーブル部のアジャスターを (a) 方向に回します。クラッチレバーの遊びを減らしたいときは、クラッチケーブル部のアジャスターを (b) 方向に回します。

8. クラッチケーブル部のロックナットを締め付け、ゴムカバーを元の位置に戻します。
9. クラッチレバー部のロックナットを締め付け、ゴムカバーを元の位置に戻します。

ブレーキレバーの遊びの調整

JAU48444

レバー先端部の遊びが規定の範囲にあるかを点検します。



1. ロックナット
2. アジャスター
3. 遊び

ブレーキレバーの遊び:

2.0-5.0 mm

ブレーキレバーの遊びは定期的な点検し、必要なら以下の手順で調整します。

1. ブレーキレバー部のゴムカバーをずらします。
2. ロックナットをゆるめます。
3. ブレーキレバーの遊びを増やすときはアジャスターを (a) 方向に、ブレーキレバーの遊びを減らすときはアジャスターを (b) 方向に回します。
4. ロックナットを締め付けて、ゴムカバーを元の位置に戻します。

警告

- ブレーキレバーの遊びを調整した場合は、遊びを確認して必ずブレーキが正しく作動することを確認してください。
- ブレーキレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは、ブレーキ油圧システムの中に空気が混入しているおそれがあります。ブレーキ油圧システムの中に空気が混入した場合は、ヤマハ販売店でエア抜きを行ってください。ブレーキ油圧システムの中に空気が混入すると、ブレーキの性能を低下させ事故の原因となります。

JWA10631

ブレーキペダル取り付け高さとの遊びの調整

JAUW0655

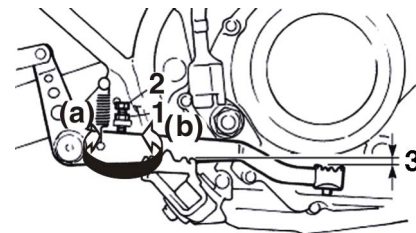
JWA10671

警告

これらの調整はヤマハ販売店で行うことを推奨します。

ブレーキペダル取り付け高さ

ブレーキペダル上部の位置は図のように、フートレスト上部より下になるよう既定の高さにしてください。



1. ロックナット
2. アジャスター
3. ブレーキペダル高さ

ブレーキペダル取り付け高さ:

1.0 mm

点検整備

ブレーキペダル取り付け高さは定期的に点検し、必要に応じて以下のように調整してください。

1. ブレーキペダル部のロックナットをゆるめます。
2. ブレーキペダルの取り付け高さを上げたいときは、アジャスターを (a) 方向に回します。ブレーキペダルの取り付け高さを下げたいときは、(b) 方向に回します。
3. ロックナットを締め付けます。

JWA11232

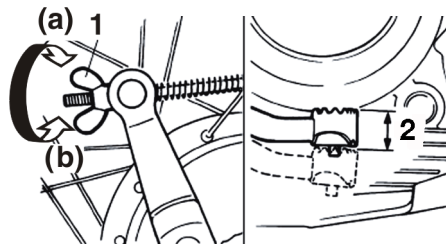
⚠ 警告

ブレーキペダル取り付け高さを調整した後は、必ずブレーキペダルの遊びを調整してください。

7

ブレーキペダルの遊び

ブレーキペダルの遊びは20.0–30.0 mmです。ブレーキペダルの遊びは定期的に点検し、必要に応じて以下のように調整します。ブレーキペダルの遊びを増やしたいときは、ブレーキロッド部のアジャスターを (a) 方向に回します。ブレーキペダルの遊びを減らしたいときは、アジャスターを (b) 方向に回します。



1. アジャスター
2. 遊び

JWAW0031

⚠ 警告

- ドライブチェーンの調整、またはリヤホイールの脱着作業を実施した後は、リヤブレーキペダルの遊び調整をしてください。
- もし、調整が正しくできない場合は、ヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAU44821

シフトペダルの点検

シフトペダルがスムーズに動くか、乗車前に毎回点検してください。スムーズに動かない場合は、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

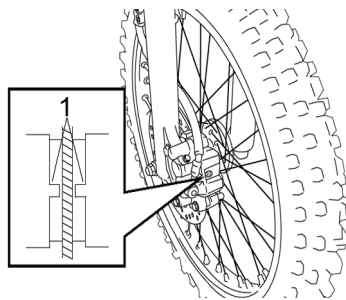
JAU22382

フロントブレーキパッドおよびリヤブレーキシューの点検

フロントブレーキパッドおよびリヤブレーキシューは「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期に摩耗の点検を行ってください。

JAU22411

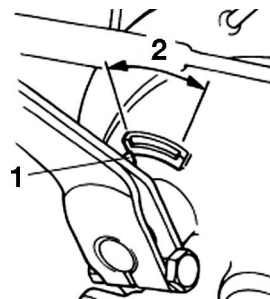
フロントブレーキパッドの点検



1. ウェアインジケター

フロントブレーキパッドはウェアインジケターを備えており、ブレーキを分解しなくてもブレーキパッドの摩耗を確認することができます。ブレーキパッドの摩耗を確認するには、ブレーキをいっばいに作動させてインジケターの示す位置を点検します。インジケターがブレーキディスクに達したらブレーキパッドの使用限度です。ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。

リヤブレーキシューの点検



1. インジケター
2. ブレーキシュー使用限度

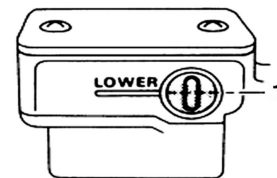
リヤブレーキシューはウェアインジケターを備えており、ブレーキを分解しなくてもブレーキシューの摩耗を確認することができます。ブレーキシューの摩耗を点検するには、ブレーキをいっばいに作動させてインジケターの示す位置を確認します。インジケターが摩耗限度に達したらブレーキシューの使用限度です。ヤマハ販売店でブレーキシューをセットで交換してください。

JAU22541

ブレーキ液量の点検

乗車する前に、ブレーキ液がロアレベルより上にあることを確認します。リザーバタンクの上面が水平になるようにして、ブレーキ液量を点検してください。必要に応じて、ブレーキ液量を補充してください。

JAU32346



1. ロアレベル

指定ブレーキ液：
BF-4 (DOT-4)

JWA15991



警告
適切な点検・整備を行わないと、ブレーキ性能が低下する可能性があります。以下の注意事項を守ってください：

- ブレーキ液が不足したまま使用しないでください。ブレーキ系統に空気が入り、ブレーキ性能の低下につながるおそれがあります。

点検整備

- キャップを取り外す前に、キャップのまわりをきれいにしてください。密閉容器に入った BF-4 (DOT-4) ブレーキ液のみを使用してください。
- 指定ブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用すると、シール類が劣化し、液漏れを起こすことがあります。
- ブレーキ液は同じ種類のものを使用してください。BF-4 (DOT-4) 以外のブレーキ液を使用すると、有害な化学反応を起こす可能性があります。
- ブレーキ液を補充するときは、ブレーキリザーバタンクに水が入らないように注意してください。水が入るとブレーキ液の沸点が大幅に下がり、ベーパーロックを起こすことがあります。

JCA17641

注意

ブレーキ液は塗装面やプラスチック部品を損傷させることがあります。液がこぼれたら必ず、すぐにふき取ってください。

ブレーキパッドの摩耗と共にブレーキ液量は徐々に下がってきますが正常なことです。ブレーキ液量が少ないときは、ブレーキパッドの摩耗やブレーキ液量に液漏れが起きていることがありますので、必ずブレーキパッドの摩耗やブレーキシステムからの液漏れが無いか確認してください。ブレーキ液量が急激に下がった場合は、乗車する前にヤマハ販売店に点検を依頼してください。

ブレーキ液の交換

「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期にヤマハ販売店でブレーキ液の交換を行ってください。また、ブレーキマスターシリンダーとキャリパーのオイルシールならびにブレーキホースは下に示す時期または損傷や漏れを発見したら交換してください。

- オイルシール：2 年毎に交換します。
- ブレーキホース：4 年毎に交換します。

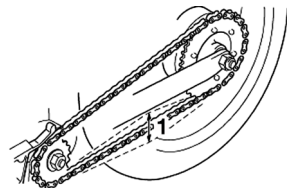
JAU22725

ドライブチェーン

JAU22762

ドライブチェーンの点検

JAU22788



1. ドライブチェーンのたわみ量

ギヤをニュートラルにして、サイドスタンドを立てます。
前後スプロケット間のチェーン中央部を手で上下に動かし、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

要点

ドライブチェーンのたわみ量を点検するときは、車体に荷重を掛けないで行います。また、チェーンテンショナーがドライブチェーンに触れないようにしてください。

ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にない場合は、たわみ量を調整します。また、リヤホイールを浮かし、タイヤを手でゆっくり回しながらチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

ドライブチェーンのたわみ量：
35.0-50.0 mm

ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。

チェーンの張り調整

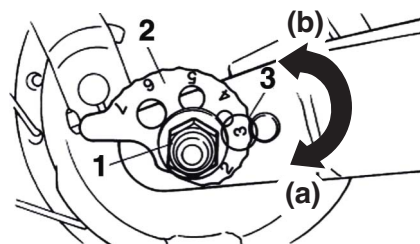
JAUW0665

チェーンの張り調整を行う前にヤマハ販売店へご相談ください。

1. ブレーキペダルの遊び調整用のアジャスターをゆるめます。
2. アクスルナットをゆるめます。
3. チェーンを張るにはスイングアーム両側のチェーンプラーを (a) 方向に回します。チェーンをゆるめるにはスイングアーム両側のチェーンプラーを (b) 方向に回して、リヤホイールを前側へ押しします。

要 点

チェーンプラーは左右均等になるよう、インジケータを左右同じ番号にします。



1. アクスルナット
2. チェーンプラー
3. インジケータ

4. アクスルナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

アクスルナット：
60 N・m (6.0 kgf・m)

5. ブレーキペダルの遊びを調整します。(7-17 ページ参照)
6. チェーンプラーのインジケータが左右同じ番号か、ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながらチェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを、柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマールブスーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマールブ 180 チェーンオイルを給油します。

点検整備

JAU54121

ケーブルの点検と注油

すべてのコントロールケーブルの作動の状態を乗車前に毎回点検し、必要に応じてケーブルとケーブルのエンド部に注油します。ケーブルが損傷していてスムーズに動かない場合は、ヤマハ販売店に点検整備を依頼してください。

推奨する潤滑剤：

ヤマルーブ 180 ワイヤークリース

JWA10712



警告

ケーブルの OUTERハウジングに損傷があると錆が発生し、ケーブルの作動を妨げる原因となります。危険な状態を防止するため、損傷を受けたケーブルはできるだけ早く交換してください。

JAU23115

スロットルグリップおよびケーブルの点検と注油

スロットルグリップの作動は、乗車前に毎回点検してください。また、ケーブルは、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期になったら、ヤマハ販売店に注油を依頼してください。

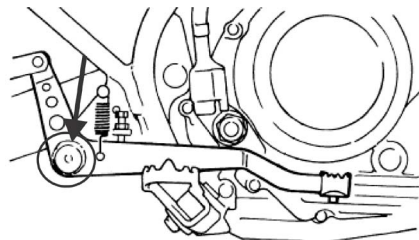
スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられています。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

JAU44276

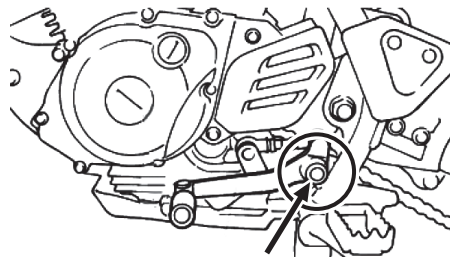
ブレーキペダルおよびシフトペダルの点検と注油

ブレーキペダルおよびシフトペダルは、乗車前に毎回作動を点検し、必要に応じて作動部に注油してください。

<ブレーキペダル>



<シフトペダル>



推奨する潤滑剤：

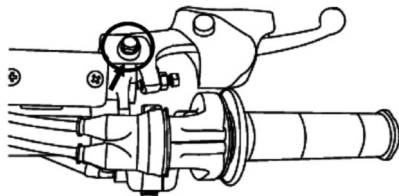
ヤマハグリース B

ブレーキおよびクラッチレバーの点検と注油

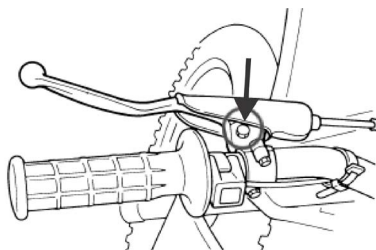
JAU23144

ブレーキとクラッチレバーの作動は乗車前に毎回点検し、必要に応じてレバーの支点到に注油してください。

<ブレーキレバー>



<クラッチレバー>

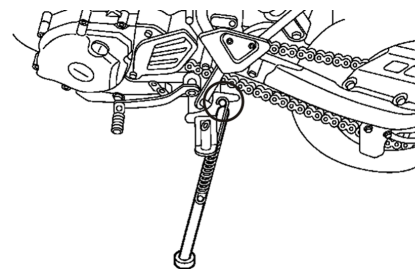


推奨する潤滑剤

ブレーキレバー：
シリコングリース G30M
クラッチレバー：
ヤマハグリース B

サイドスタンドの点検と注油

JAU23203



サイドスタンドは、乗車前に毎回作動を点検し、必要に応じて作動部に注油してください。

JWA10732

⚠ 警告

サイドスタンドの動きがスムーズでない場合は、ヤマハ販売店に点検、修理を依頼してください。

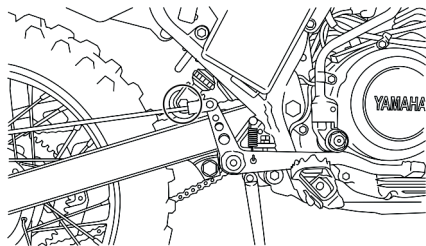
推奨する潤滑剤：
ヤマハグリース B

点検整備

7

リヤサスペンションの注油

JAU85250

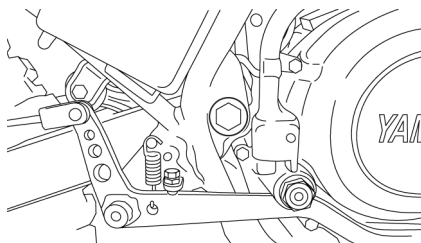


リヤサスペンションの取り付け部は、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定された時期になったら、ヤマハ販売店に注油を依頼してください。

推奨する潤滑剤：
ヤマハモリブデングリース

スイングアームピボットの注油

JAJM2703



スイングアームピボットは、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期になったら、ヤマハ販売店に注油を依頼してください。

推奨する潤滑剤：
ヤマハモリブデングリース

フロントフォークの点検

JAU23273

フロントフォークの状態と作動は、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期に、次の手順で点検してください。

外観の点検

JWA10752

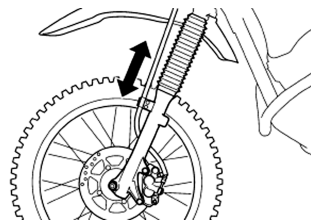


警告
車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

インナーチューブにかき傷や損傷、過度のオイル漏れがないか点検します。

作動の点検

1. 車体を平坦な場所に立て、直立した状態に保ちます。
2. フロントブレーキをかけながらハンドルを数回強く押し下げて、フォークがスムーズに伸縮し、弾力があるか確認します。



注意

何らかの損傷が見られたり、フロントフォークがスムーズに作動しない場合は、ヤマハ販売店に点検、修理を依頼してください。

JCA10591

ステアリングの点検

ステアリングのベアリングが摩耗していたり緩んでいたりとすると、大変危険です。したがって、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期にステアリングの作動性を点検してください。

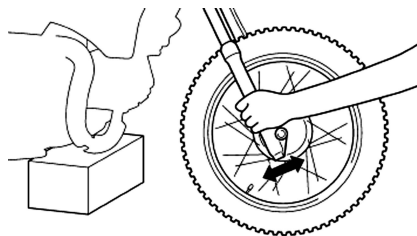
1. 前輪を浮かせます。（7-27 ページ参照）

JWA10752

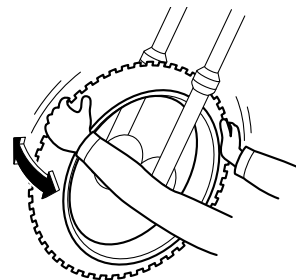
警告

車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

2. フロントフォークの先端をつかんで、前後に動かし、異常なガタつきがある場合は、ヤマハ販売店にステアリングの点検、修理を依頼してください。



ホイールベアリングの点検

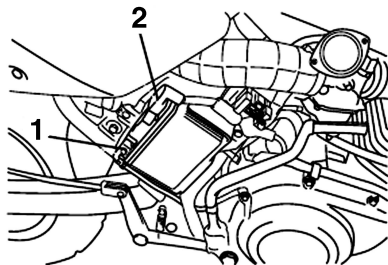


フロントおよびリアのホイールベアリングは、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期に従って注油してください。ホイールハブに遊びがあったり、ホイールがスムーズに回転しない場合は、ヤマハ販売店でホイールベアリングの点検整備を受けてください。

点検整備

バッテリー

JAU2338A



1. -リード線
2. +リード線

バッテリーはカバー B の後ろにあります。
(7-6 ページ参照)

この車両のバッテリーは密閉式です。バッテリー液の補充、点検は不要ですが、バッテリーリード線の取り付けは点検が必要です。必要に応じて締め付けてください。

JWA10761

警告

- 電解液は硫酸を含むため有毒で危険です。硫酸は大やけどを引き起こしますので、バッテリーの近くで作業するときには皮膚や目、衣服に触れないようにするとともに、両眼を保護してください。触れてしまった場合は、次の応急処置を施してください。
- 皮膚についた場合：大量の水で洗い流します。

- 誤飲した場合：大量の水または牛乳を飲み、直ちに医師を呼びます。
- 目に入った場合：15 分間以上水で洗い流し、速やかに医師の治療を受けます。
- バッテリーは引火性ガスが発生します。したがって、バッテリーには火花や炎、タバコなどを近づけないでください。屋内で充電するときは十分な換気をしてください。
- バッテリーに子供が近づかないようにしてください。

バッテリーの充電

バッテリーが放電していると思われる場合は、できるだけ早くヤマハ販売店でバッテリーを充電してください。オプションの電装系統のアクセサリを装備している場合は、バッテリーの放電が早まりますのでご注意ください。

JCA16522

注意

密閉式バッテリーを充電するには、特殊な(定電圧)充電器が必要です。通常の充電器を使うとバッテリーを傷めます。

バッテリーの保管

1. 車両を1ヶ月以上使わない場合はバッテリーを取り外し、完全に充電して涼しい乾燥した場所に保管してください。

注意

バッテリーを取り外すときは、必ずメインスイッチをオフしてから、マイナスリード、プラスリードの接続の順で外してください。

2. 2ヶ月以上にわたってバッテリーを保管する場合は、少なくとも月に1度は点検し、必要に応じて充電してください。
3. バッテリーは取り付けの前に完全に充電してください。

JCA16842

注意

バッテリーを取り付ける際は、必ずメインスイッチをオフしてから、プラスリード、マイナスリードの接続の順で接続してください。

4. バッテリーを取り付けたら、バッテリーターミナルにリード線を正しくつないでください。

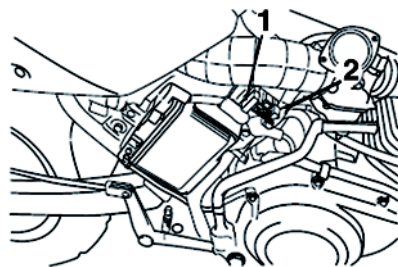
JCA16531

注意

バッテリーは常に充電しておきます。放電した状態で保管しておくと、機能が回復できず、バッテリーが使用できなくなります。

ヒューズの交換

JAU23505



1. メインヒューズ
2. スペアヒューズ

ヒューズホルダーは、カバー B の後ろにあります。(カバーの取り外しは 7-6 ページ参照)
ヒューズが切れた場合、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。

規定ヒューズ：
10.0 A

JCA12862

注意

- 交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。

- 電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。
- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けしないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。

3. メインスイッチを ON にし、電気回路をオンにして装置が作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

車体の支持

このモデルはメインスタンドを装備していませんので、フロントホイールやリヤホイールを取り外したり、車体を支持する必要がある整備を行う際には以下に示すようにして車体を支持してください。

フロントホイール

1. 車体の後部をオートバイ用のスタンドを使って支持します。オートバイ用のスタンドがない場合はリヤホイール前方のフレーム下部にジャッキをかけて支持してください。
2. オートバイ用スタンドを使ってフロントホイールを地面から持ち上げます。

リヤホイール

オートバイ用スタンドを使ってリヤホイールを地面から持ち上げます。オートバイ用のスタンドがない場合はリヤホイール前方のフレーム下部、またはスイングアームの両側にジャッキをかけて支持してください。

点検整備

フロントホイール

JAU24361

5. フロントホイールを取り外します。

JCA11073

JAU56372

注意

ホイールを取り外した状態で、ブレーキをかけないでください。ブレーキパッドが閉じてしまいます。

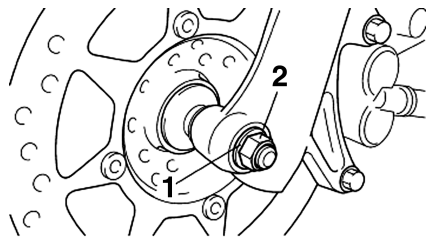
フロントホイールの取り外しかた

JWA10822

警告

- ホイールの修理は、ヤマハ販売店に依頼することをおすすめします。
- 車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

1. アクスルナットをゆるめます。



1. ワッシャー
2. アクスルナット

2. エンジンの下に適当なスタンドを置きます。(7-27 ページ参照)
3. アクスルナットとワッシャーを取り外します。
4. ホイールアクスルを引き抜きます。

リヤホイール

JAU25081

JAU56610

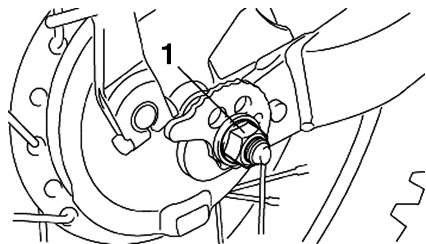
リヤホイールの外し方

JWA10822

警告

- ホイールの修理は、ヤマハ販売店に依頼することをおすすめします。
- 車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

1. アクスルナットをゆるめます。

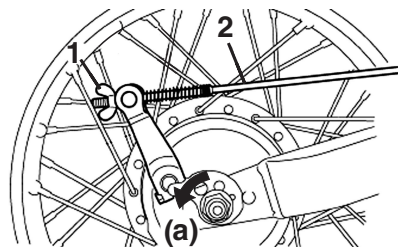


1. アクスルナット

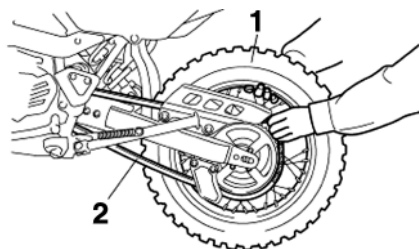
2. ブレーキ調整用のアジャスターを外し、ブレーキロッドをブレーキカムシャフトレバーから取り外します。

締め付けトルク：

アクスルナット：
45 N・m (4.5 kgf・m)



1. アジャスター
2. ブレーキロッド
3. スイングアーム両側のチェーンブラーを (a) 方向いっぱいに戻します。



1. リヤホイール
2. ドライブチェーン
4. リヤホイールを地面から持ち上げます。(7-27 ページ参照)
5. アクスルナットを取り外したあと、ホイールアクスルを引き抜きます。

6. ホイールを前方に押して、ドライブチェーンをリヤスプロケットから取り外します。

要 点

ホイールを取り外したり、取り付けたりするためにチェーンを分解する必要はありません。

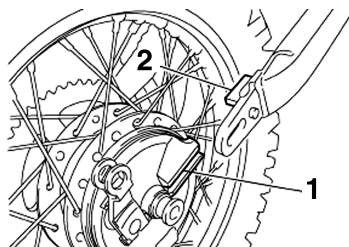
7. ホイールを取り外します。

リヤホイールの取り付けかた

1. 左側からホイールアクスルを差し込みます。

要 点

必ずチェーンブラーの刻印側を外側に向けて、ブレーキシュープレートに溝にスイングアームのリテーナーが合うように組付けます。



1. 溝
2. リテーナー

2. リヤスプロケットにドライブチェーンをかけて、ドライブチェーンの張り調整を行います。(7-20 ページ参照)
3. アクスルナットを取り付けて、リヤホイールを下げて地面に接地させます。
4. アクスルナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

アクスルナット：

60 N・m (6.0 kgf・m)

5. ブレーキロッドをブレーキカムシャフトレバーに取り付けて、ブレーキロッドにブレーキ調整用のアジャスターを取り付けます。
6. ブレーキペダルの遊びの調整を行います。(7-17 ページ参照)

こんなときは

ヤマハ車は工場から出荷前に入念に点検されていますが、使用中にトラブルが発生することがあります。燃料、圧縮、点火装置のトラブルは始動不良やパワーの低下を引き起こす原因となります。

次ページのトラブルシューティングチャートには、これらの重要なシステムをご自身で点検するための手軽な手順が記載されています。点検して、修理の必要がある場合にはヤマハ販売店に車両を持ち込んでください。専用の工具を使って経験、知識の豊富な整備士が適切に修理を行います。

部品を交換するときは、必ずヤマハ純正部品を使用してください。類似部品は、ヤマハ純正部品と似ていますが、しばしば性能で劣ることがあり、長持ちしないため、結局、修理費用が高つくことがあります。

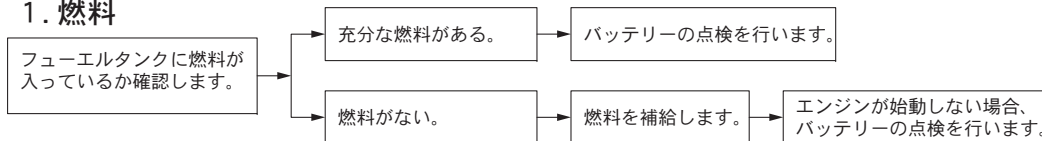
トラブルシューティングチャート



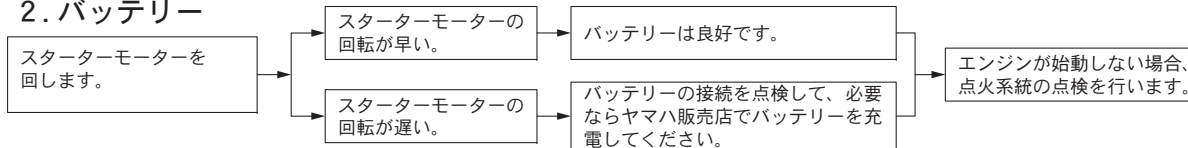
警告

燃料系統は、必ずタバコなどの火気がないところで点検作業してください。

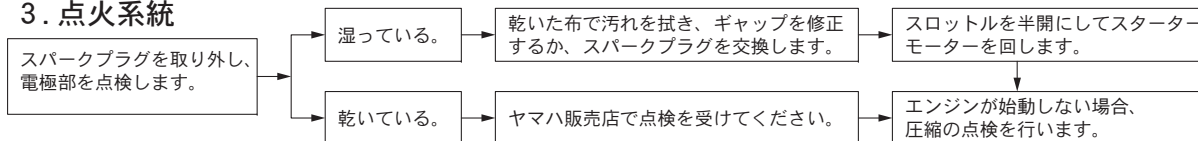
1. 燃料



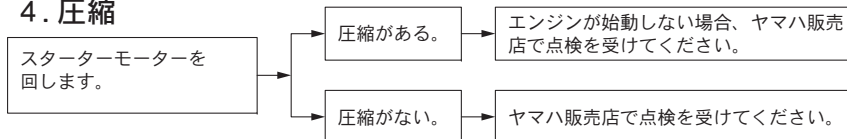
2. バッテリー



3. 点火系統



4. 圧縮



お車の手入れ

JAU41359

お車の手入れ

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。すみずみまで清掃すれば、普段気付かない異状箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

清掃前

1. エンジンが冷えた後、マフラー出口をビニール袋で覆います。
2. スパークプラグキャップを含む全ての電装カブラーやコネクター、およびキャップやカバーが正しく取り付けられていることを確認します。
3. クランクケース上の焼き付いたオイルのような落ちにくい汚れは、脱脂剤とブラシで取ってください。ただし、脱脂剤をシール、ガスケット、スプロケット、ドライブチェーン、ホイールアクスルには決して使わないでください。汚れと脱脂剤は水で洗い落としてください。

清掃

JCA17692

注意

- 強酸性のホイールクリーナーの使用（特にスポークホイールへの使用）は避けてください。落ちにくい泥汚れを落とすのにこのような製品を使用する場合は、クリーナーの使用説明書で指示された時間以上は洗

して放置しないでください。また水で完全に洗い流したあと、すぐに乾かし、防錆潤滑剤を塗布してください。

- カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが十分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。
- コンパウンドの入ったワックスは、プラスチック部品を傷つけますので使用しないでください。強力洗剤、研磨剤、溶剤、シンナー、燃料（ガソリン）、錆取り剤、錆止め剤、ブレーキフルード、不凍液、バッテリー液などの付着した布やスポンジは使用しないでください。
- 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、以下の部分の故障の原因となります。：シール類（ホイールやスイングアームのベアリング、フロントフォーク、ブレーキ）、電装品（カブラー、コネクター、スイッチ）、プリーザーホース、ベントホース

通常の使用後

汚れをぬるま湯、中性洗剤、清潔で柔らかなスポンジで落としてください。その後、きれいな水で完全に洗い流してください。手の届

きにくい箇所は、歯ブラシあるいは細めの毛ブラシを使用してください。落ちにくい汚れや虫の死骸などは、清掃前に濡れた布を2～3分間かぶせておくと落ちやすくなります。

雨天、あるいは海辺での走行後

海水に含まれる塩分は腐食性が高いため、雨天あるいは海辺での走行をする度に以下の手順で清掃を行なってください。

1. エンジンが冷えた後、車を冷水と中性洗剤で洗車します。

JCA10792

注意

温水は塩分の腐食性を促進させますので、使用しないでください。

2. メッキ部を含む全ての金属の表面に、腐食を防ぐために防錆潤滑剤をかけてください。

洗車後

1. セーム皮が吸収性のある布で水気をよくふき取り、乾かします。
2. すみやかにドライブチェーンを乾かし、錆を防ぐためヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。
3. 金属磨き剤を使ってエキゾーストシステムを含むクローム、アルミニウム、ステンレス部品を磨きます。
4. 腐食を防ぐため、メッキ部を含む全ての金属の表面に、防錆潤滑剤をかけることをおすすめします。
5. スプレーオイルを使用して残った汚れを取り除きます。

6. 石はねなどによる塗装面の傷を修正します。
7. 塗装面にワックスをかけます。
8. 保管またはカバーをかける前に車を完全に乾かします。

JWA11132

⚠ 警告

- ブレーキやタイヤには、オイルやワックスを付着させないでください。
- 必要ならブレーキディスククリーナーなどでブレーキディスクとブレーキパッドを清掃し、温水と中性洗剤でタイヤを洗浄してください。洗浄後、低速で走行してブレーキやコーナリング性能を点検してください。

JCA10801

注意

- スプレーオイルやワックスは少量を塗布し、ふき残しのないようにしてください。
- ゴムやプラスチックの部品に、プラスチック、ゴム用以外のオイルやワックスを塗布しないようにしてください。
- 研磨剤は塗装が剥がれる原因となりますので、使用しないでください。

要 点

アフターケア用品については、ヤマハ販売店にご相談ください。

保管のしかた

JAU41515

短期の保管

常に涼しくて乾燥した場所に保管してください。必要であれば、通気性のあるカバーをかけてほこりを防いでください。
なお、ボディカバーはマフラーが冷えてからかけてください。

JCA10811

注意

- 水分が残ったまま、通気性の悪い場所で車両を保管したり、通気性のないカバーをかけたりすると、錆の原因となります。
- 錆を防ぐため、湿気のある場所、家畜小屋（アンモニアが発生するため）、強力な薬品が保管されている場所を避けてください。

長期の保管

数か月間車を保管する前に：

1. この章の「お車の手入れ」の指示に従ってください。
2. OFF 位置のあるフューエルコックを装備した車：フューエルコックを OFF の位置にします。
3. キャブレターのドレンボルトをゆるめ、キャブレターフロートチャンバー内の燃料を抜きます。これにより、キャブレター内に燃料の沈殿物が溜まることを防止します。
4. 以下の手順を行い、シリンダー、ピストンリングなどの腐食を防ぎます。

- a. スパークプラグキャップとスパークプラグを外します。
- b. スプーン一杯分のエンジンオイルをスパークプラグの孔に入れます。
- c. スパークプラグキャップをスパークプラグに取り付け、その後スパークプラグをシリンダーヘッドに置き、側方電極が確実にアースするようにします。（次の手順中、スパークプラグで放電されます。）
- d. スターターでエンジンを数回、回します。（シリンダー壁にオイルを付着させます。）
- e. スパークプラグキャップをスパークプラグから外し、その後スパークプラグとスパークプラグキャップを取り付けます。

JWA10952

⚠ 警告

スパークによる傷害を防ぐため、エンジンを回転させる間はプラグの側方電極を確実に接地（アース）させてください。

5. 全てのケーブル、全てのレバーとブレーキペダルの作動部に注油します。
6. タイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気を入れます。その後、車をリフトアップして、両輪のホイールが地面から離れるようにします。それができない場合は、タイヤの接地部分に負荷がかかるのを防ぐため、毎月ホイールを少しずつ回して接地部分の位置を変えます。

お車の手入れ

7. マフラー出口をビニール袋で覆い、湿気が侵入するのを防ぎます。

要 点

車を保管する前に、必要な修理を行います。

アフターケア用品について

JAU28087

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

ヤマハ純正オイル

JAU28116

ヤマルーブ RS4GP

ヤマルーブシリーズ最高峰エンジンオイル。ヤマルーブ RS4GP は、ヤマハ発動機のMotoGP レーシングチームにおいて技術開発されたテクノロジーを高次元でフィードバックしています。

高負荷、高回転での過酷な条件に耐える油膜保持性、せん断安定性に優れ、長時間安定して高い潤滑性能を発揮します。

高性能エンジンに適した、ヤマルーブシリーズ最高峰の高性能オイルです。

低摩擦特性・高い油膜保持性により、優れたスロットルレスポンスとシフトフィーリングを長時間安定して発揮します。

ヤマルーブプレミアムシンセティック

中・大型車両に最適な高品質二輪車用オイル。

大排気量モデルでの夏場の渋滞運転などエンジンには過酷な状況に強いオイル。

高温高負荷状況下で蒸発が少なく、高い酸化安定性能と油膜保持性能を発揮します。

ヤマルーブスポーツ

走行シーンを選ばないミドルグレードオイル。

価格と性能のバランスに優れ、排気量や車種を問わないオイル。

ストリートからロングツーリングまであらゆる走行シーンで安定した性能を発揮します。

ヤマルーブスタンダードプラス

経済的にも優れた、コストパフォーマンスオイル。

ヤマハ車の開発テストに使用され、工場出荷時にも充填されるベーシックオイル（一部車種を除く）。

コストパフォーマンスに優れ、スポーツ走行からタフな業務使用まで幅広い用途に対応。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、次の URL を入力してホームページを参照するか、「ヤマハ バイク オイル」というキーワードで検索してください。

<https://www.ysgear.co.jp/mc/>

ヤマハ バイク オイル

検索



寸法：

全長：
1885 mm
全幅：
795 mm
全高：
1085 mm
シート高：
805 mm
軸間距離：
1270 mm
最低地上高：
295 mm

重量：

車両重量：
90 kg
乗車定員：
1 名

性能：

最小回転半径：
2.0 m

エンジン：

行程：
4 ストローク
冷却方式：
空冷
動弁機構：
SOHC
気筒数：
単気筒
総排気量：
123 cm³

フロントブレーキ：

ブレーキ形式：
油圧式シングルディスクブレーキ
指定ブレーキフルード：
BF-4 (DOT-4)

リヤブレーキ：

ブレーキ形式：
機械式リーディングトレーリングドラムブレーキ

フロントタイヤ：

種類：
チューブ有り
サイズ：
70/100-19 42M

メーカー / 銘柄：
IRC/IX05H

リヤタイヤ：

種類：
チューブ有り
サイズ：
90/100-16 52M
メーカー / 銘柄：
IRC/IX05H

動力伝達機構：

1 速：
2.642 (37/14)
2 速：
1.777 (32/18)
3 速：
1.315 (25/19)
4 速：
1.045 (23/22)

5 速：

0.875 (21/24)

エレクトリカル：

電圧：
12V

エンジンオイル：

推奨オイル：
ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス

エンジンオイル量：

オイル交換時：
1.00 L

バッテリー：

バッテリー型式：
GT4L-BS
バッテリー容量：
12 V, 2.6 Ah (10 HR)

スパークプラグ：

メーカー / 型式：
NGK/CR7HSA
プラグギャップ：
0.6-0.7 mm

ユーザー情報

JAU26357

JAU26401

JAU26442

ID 番号

キーの ID 番号、車台番号、モデルラベルの情報を下記に記録しておき、ヤマハ販売店に部品を注文する時や、車が盗難にあった場合などに役立ててください。

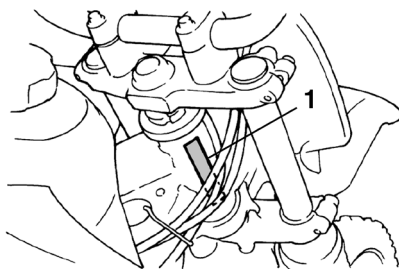
車台番号：

原動機番号：

モデルラベルの情報：

キーの ID 番号情報：

車台番号



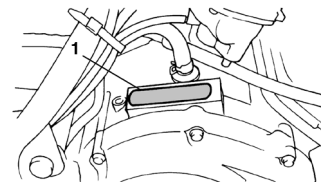
1. 車台番号

車台番号はステアリングヘッドパイプに打刻されています。指定の空欄にこの番号を控えておいてください。

要 点

車台番号は自分の車であることを識別するために使用します。

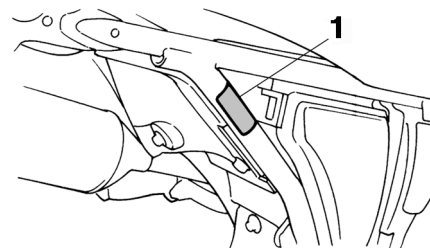
原動機番号



1. 原動機番号

原動機番号はクランクケースに打刻されています。

モデルラベル



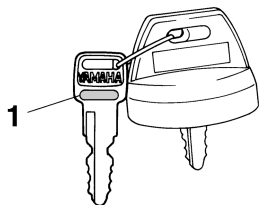
1. モデルラベル

JAU26461

モデルラベルは図に示す部分に貼り付けてあります。この情報を指定の空欄に控えておいてください。この情報はヤマハ販売店に部品を注文するときに必要になります。

キーの ID 番号

JAU26391



1. キー番号

キーの ID 番号は、キーに打刻されています。所定の空欄にこれを控えておいて、新しいキーを注文するときには、この番号をお知らせください。

二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1. 廃棄二輪車取扱店の証

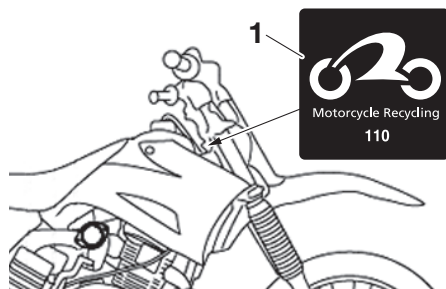
JAU36644

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうか不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。

ヤマハ発動機（株） 二輪車リサイクルシステム

<https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/>

公益財団法人 自動車リサイクル促進センターホームページ

<https://www.jarc.or.jp/motorcycle/>

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

サービスマニュアル 部品番号：

QQS-CLT-000-BSR

あ

ID 番号	10-1
アクセサリと交換部品	7-15
アフターケア用品について	8-3

え

エアクリーナーエレメントの清掃	7-10
エンジンアイドリング回転数の調整	7-12
エンジンオイル	7-8
エンジン始動 (エンジンが暖まっているとき)	6-2
エンジン始動 (エンジンが冷えているとき)	6-2

お

お車の手入れ	8-1
--------------	-----

か

カバーの取り外し、取り付け	7-6
---------------------	-----

き

キーの ID 番号	10-2
キックスターター	4-6
ギヤチェンジのしかた	6-3
キャブレターの調整	7-12

く

クラッチレバー	4-2
クラッチレバーの遊びの調整	7-16

け

ケーブルの点検と注油	7-22
原動機番号	10-1

こ

こんなときは	7-30
--------------	------

さ

サービスマニュアル (別売) の紹介	10-3
サイドスタンド	4-9
サイドスタンドの点検と注油	7-23

し

シート	4-6
シフトペダル	4-2
シフトペダルの点検	7-18
車体の支持	7-27
車台番号	10-1

す

スイングアームピボットの注油	7-24
スタータースイッチ	4-1
スターティングサーキット カットオフシステム	4-9
ステアリングの点検	7-25
スパークアレスターの清掃	7-11
スパークプラグの点検	7-7
スポークホイール	7-15
スロットルグリップおよび ケーブルの点検と注油	7-22
スロットルグリップの遊びの調整	7-13

た

タイヤ	7-14
-----------	------

ち

駐車	6-4
チョークノブ	4-5

て

定期点検項目 (排ガス関連)	7-2
定期点検整備	7-1
定期点検整備項目 (一般) と給油	7-3

と

ドライブチェーン	7-20
ドライブチェーンの給油	7-21
トラブルシューティングチャート ...	7-31

な

ならし運転	6-1
-------------	-----

に

日常点検の実施	5-1
二輪車を廃棄する場合は?	10-2

ね

燃料	4-4
----------	-----

は

バッテリー	7-26
バルブクリアランス	7-14
ハンドルスイッチ	4-1

ひ

ヒューズの交換	7-27
---------------	------

ふ

フューエルコック	4-5
フューエルタンクキャップ	4-3
フューエルタンクブリーザーホース	4-4
ブレーキ	6-3
ブレーキ液の交換	7-20
ブレーキ液量の点検	7-19
ブレーキおよびクラッチレバーの 点検と注油	7-23
ブレーキペダル	4-3
ブレーキペダルおよび シフトペダルの点検と注油	7-22
ブレーキペダル取り付け高さ と遊びの調整	7-17
ブレーキレバー	4-2

索引

ブレーキレバーの遊びの調整	7-17
フロントフォークの調整	4-7
フロントフォークの点検	7-24
フロントブレーキパッドおよび リヤブレーキシューの点検	7-19
フロントホイール	7-28

ほ

ホイールベアリングの点検	7-25
保管のしかた	8-2

め

メインスイッチ	4-1
---------------	-----

も

モデルラベル	10-1
--------------	------

り

リヤクッションの調整	4-7
リヤサスペンションの注油	7-24
リヤホイール	7-28

あなたの街のあなたのお店



QQS-CLT-100-BSR

PRINTED IN BRAZIL
2022.05-FAMAS (J)